

令和4年度（2022年度）

教育委員会の点検・評価報告書

令和3年度（2021年度）事業対象



高崎市教育委員会

基本方針

本市では、「教育と人づくり」を基本方針の一つに掲げて新しいまちづくりに取り組んでおり、一人ひとりの子どもたちや市民に寄り添う教育行政の充実を図っています。また、子どもたちがいじめのない環境で健やかに、伸びやかに、個性豊かに育つため、学校や地域社会で守り育てる環境を整えることが大事であると考えています。

「教育都市高崎」の創造を目指し、子どもたちの命を守る危機管理の強化、子どもたちや保護者、地域が誇れる学校教育の充実、子育てや親としてのあり方など家庭教育の充実、市民の自己啓発のための生涯教育の充実、人生を豊かにするためのスポーツの推進などに取り組んでいきます。

高崎市教育大綱の施策の視点

1. 生涯学び続け、心豊かにたくましく生きぬく子どもの育成
2. 子どもたちの心身の健康と体力の向上
3. 安全で多機能な教育環境づくりの推進
4. 地域力を育む社会教育の充実
5. 歴史や文化の薫り高い文化環境づくりの推進

教育委員会委員（令和4年9月現在）

職名	氏名
教育長	飯野真幸
教育長職務代理者	塚田ひろこ
委員	しげ重 田 誠
委員	じん ぐう よし かず 神 宮 嘉 一
委員	たの うち あけ み 田野内 明 美

目 次

I 令和3年度事業を対象とした高崎市教育委員会の点検・評価について	1
II 教育委員の活動状況	4
III 会議実績	5
IV 点検・評価結果	
＜点検評価シート＞	
生涯学び続け、心豊かにたくましく生きぬく子どもの育成	7
子どもたちの心身の健康と体力の向上	27
安全で多機能な教育環境づくりの推進	36
地域力を育む社会教育の充実	38
歴史や文化の薫り高い文化環境づくりの推進	52
V 点検・評価結果に対する学識経験者の意見	70
VI 点検・評価結果を踏まえた教育委員会の対応・方向性	78

I 令和3年度事業を対象とした高崎市教育委員会の点検・評価について

高崎市教育委員会では、平成13年に21世紀の教育行政を長期的な視野で調査・研究し、生涯にわたる教育のあり方や方向性を「高崎市教育ビジョン」として策定し、さまざまな教育課題に取り組んできました。平成20年4月には、新たな課題の発生や市町村合併により、大きく変化した教育環境に対応するため、「教育ビジョン」の改定を行いました。

その後、本市では「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、市長と教育委員会で開催する「総合教育会議」において、教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱として「高崎市教育大綱」を策定しました。「教育ビジョン」の計画期間は満了しましたが、その趣旨や施策・事業等は「高崎市教育大綱」に基づく施策として承継されています。

教育委員会では、「高崎市教育大綱」に掲げる5つの施策の視点に基づく教育行政と重点施策の推進を図るため、年度ごとに「高崎市教育行政方針」を策定し、当該年度の教育施策の基本的な考え方や方策を決定するとともに、各事業の内容や目標を具体的に示しています。

この点検・評価報告書は、「令和3年度教育行政方針」に掲げた施策・事業等の実施状況の評価検証するものです。対象となる令和3年度事業については、新型コロナウイルス感染拡大によるさまざまな影響があったものの、感染症対策を講じたうえで、実施方法の変更や代替策などにより、事業目的に向けた多くの取組を行いました。新型コロナウイルス感染症による影響と各種対応を踏まえたうえで評価検証を行い、今後の事業方針等を検討した結果についてお知らせします。

参 考

○ 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

教育大綱

生涯学び続け、心豊かにたくましく生きぬく子どもの育成

取組

- 1-1-1 教育機関の連携強化
- 1-1-2 学力向上への取組
- 1-1-3 いじめ対策の更なる強化
- 1-1-4 ゆとりある創造的な教育
- 1-1-5 家庭地域との連携強化
- 1-1-6 子どもを伸ばす教師力の向上
- 1-1-7 特別支援教育の充実
- 1-1-8 教育に関する研究調査及び研修、相談活動の充実
- 1-1-9 学校の活性化と一人ひとりの子どもを生かす教育の推進

令和3年度の取組（事業）

- 幼・保・小連携推進事業
- 子どもの学ぶ意欲向上事業
- 児童生徒の学力補充事業
- 英語教育指導事業
- 学力アップ推進事業
- いじめ防止対策事業
- やるベンチャーウィーク推進事業
- 「気になる子」対策事業
- 読書活動推進事業
- 学校・家庭・地域連携事業
- 学校教育力向上対策事業
- 通級指導教室推進事業
- 教育調査研究・研修事業
- 教育支援センター推進事業

- 1-2-1 確かな学力の確立
- 1-2-2 キャリア教育の推進
- 1-2-3 国際理解教育の推進

- 学力向上推進事業
- キャリア教育推進事業
- 国際教育推進事業

子どもたちの心身の健康と体力の向上

取組

- 2-1 心と体の健康づくり
- 2-2 体力の向上と丈夫な体づくり
- 2-3 自ら身を守る交通安全教育の推進と安全な通学路の確保
- 2-4 魅力ある学校給食づくり
- 2-5 自然体験活動を通じた豊かな心の育成

令和3年度の取組（事業）

- 児童生徒等健康管理対策事業
- 学校保健充実事業
- 部活動充実事業
- 学校体育充実事業
- 交通教室事業
- 給食充実事業
- 給食運営事業
- 小学生自然体験活動事業
- 「健康教育」啓発事業

安全で多機能な教育環境づくりの推進

取組

- 3-1 安全・安心な学校づくり
- 3-2 多様で弾力的な活動を可能にする学校づくり
- 3-3 地域性を発揮させた学校づくり
- 3-4 環境にやさしい学校づくり

令和3年度の取組（事業）

- 学校施設改修事業（小学校、中学校、特別支援学校、幼稚園）
- 学校施設整備事業（高等学校）
- 学校体育施設開放事業

地域力を育む社会教育の充実

取組

- 4-1-1 地域の教育力を活かした事業の推進
- 4-1-2 学社連携・融合による生涯学習の推進
- 4-1-3 人権文化の創造
- 4-1-4 家庭教育の振興
- 4-1-5 学習支援体制の整備
- 4-1-6 平和な社会生活の創造
- 4-1-7 地域の課題に対応した公民館事業の推進
- 4-1-8 社会教育施設の学習環境の整備

令和3年度の取組（事業）

- 地区推進体制整備事業
- 公民館運営事業
- 生涯学習推進事業
- 人権文化創造事業
- 家庭教育支援事業
- 視聴覚教育事業
- 公民館整備事業
- 社会教育施設改修事業
- 市民活動センター管理運営事業

- 4-2-1 図書館資料の充実
- 4-2-2 図書館ネットワークの活用
- 4-2-3 市民生活に役立つ図書館づくり
- 4-2-4 子どもの読書活動の推進
- 4-2-5 関係諸機関との連携

- 図書館管理運営事業
- 市民生活に寄り添う図書館づくり
- 子どもの読書活動の推進
- 関係諸機関との連携事業

歴史や文化の薫り高い文化環境づくりの推進

取組

- 5-1 文化財保存活用地域計画の策定・推進
- 5-2 身近な文化遺産の活用と歴史学習の環境づくり
- 5-3 市民への文化財情報の提供
- 5-4 文化財に親しむための環境づくり
- 5-5 歴史的建造物の保存へ向けた環境整備
- 5-6 地域の文化財の掘り起こしと保護するための環境づくり
- 5-7 民俗資料の収集と展示
- 5-8 市民の積極的参加を促す資料館活動
- 5-9 市民に開かれた資料館の運営
- 5-10 市民の学習活動の支援

令和3年度の取組（事業）

- 文化財保存活用地域計画の策定・推進事業
- 日高遺跡保存整備事業
- 箕輪城跡保存整備事業
- 北谷遺跡保存整備事業
- 上野国多胡郡正倉跡保存整備事業
- 山名古墳群保存整備事業
- 「世界の記憶 上野三碑」関連事業
- 文化財保存活用事業
- 埋蔵文化財調査事業
- 多胡碑周辺重要遺跡範囲確認調査事業
- 上野国分尼寺跡範囲確認調査事業
- 文化財調査事業
- 歴史民俗資料館運営事業
- 観音塚考古資料館運営事業
- かみつけの里博物館運営事業
- 多胡碑記念館運営事業
- 吉井郷土資料館運営事業
- 埋蔵文化財センター整備事業

II 教育委員の活動状況

年	月	日	曜日	行事名	場所
3	4	5	月	定例校園長会議	3 1 会議室
		22	木	教育委員会定例会	教育委員会室
		30	金	定例校園長会議	3 1 会議室
	5	27	木	教育委員会定例会	教育委員会室
	6	1	火	定例校園長会議	3 1 会議室
		29	火	教育委員会定例会	教育委員会室
	7	2	金	定例校園長会議	3 1 会議室
		29	木	教育委員会定例会	教育委員会室
	8	5	木	人権教育講演会	音楽センター
		26	木	教育委員会定例会	教育委員会室
				定例校園長会議	3 1 会議室
	9	30	木	教育委員会定例会	教育委員会室
	10	1	金	定例校園長会議	3 1 会議室
		17	日	高崎マーチングフェスティバル観覧	高崎アリーナ
		21	木	教育委員会定例会	教育委員会室
11	2	火	定例校園長会議	3 1 会議室	
	18	木	教育委員会定例会	教育委員会室	
12	16	木	総合教育会議	庁議室	
			教育委員会臨時会	教育委員会室	
4	1	18	火	教育委員会定例会	教育委員会室
	2	10	木	教育委員会定例会	教育委員会室
	3	17	木	教育委員会定例会	教育委員会室

Ⅲ 会議実績

日 時	議 案
令和3年 4月22日(木) 午後2時～	報告 ・令和3年度における学校（園）施設の工事計画について
5月27日(木) 午後2時～	1 令和3年度高崎市一般会計補正予算（6月議会提出分）教育費見積書の提出について
6月29日(火) 午後2時～	1 臨時代理の承認について（高崎市立高崎経済大学附属高等学校令和4年度使用教科用図書の採択） 2 高崎市社会教育委員の委嘱について 3 高崎市公民館運営審議会委員の委嘱について 4 高崎市教育機関の適正配置及び設置に関する審議会委員の委嘱について 報告 ・第9回高崎学検定及び第8回高崎学検定解説ブックについて
7月29日(木) 午後2時～	1 令和4年度使用教科用図書の採択について
8月26日(木) 午後2時～	報告 ・第45回全国高等学校総合文化祭書道部門の結果について
9月30日(木) 午後2時～	1 令和3年度教育委員会の点検・評価報告書について 2 令和3年度高崎市文化財保護賞候補者の推せんについて 3 令和3年度末県費負担教職員人事異動方針について 報告 ・令和3年度各種音楽コンクール等の実績について ・令和3年度中体連総合体育大会の結果について
10月21日(木) 午後2時～	1 臨時代理の承認について（訴えの提起） 2 高崎市指定文化財の指定について 報告 ・令和3年度高崎市公民館研究集会の開催について
11月18日(木) 午後2時～	1 臨時代理の承認について（訴えの提起） 2 臨時代理の承認について（訴えの提起） 3 令和3年度高崎市一般会計補正予算（12月議会提出分）教育費見積書の提出について 報告 ・第9回高崎学検定の実施結果について ・令和3年度生涯学習フェスティバルの開催について ・令和3年度優良公民館群馬県教育委員会表彰の受賞について ・第27回群馬県高等学校総合文化祭及び関東高等学校新人戦陸上競技大会の結果について

12月16日(木) 午後3時～	1 県費負担教職員の人事について
令和4年 1月18日(火) 午後2時～	<ol style="list-style-type: none"> 1 高崎市指定文化財の指定について 2 高崎市文化財調査委員の委嘱について 3 高崎市立小学校、中学校及び特別支援学校管理運営規則の一部改正について 4 令和4年度高崎市一般会計予算教育費見積書の提出について 報告 <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度教育者表彰及び文部科学大臣優秀教職員表彰の受賞について ・令和3年度文部科学大臣表彰等の受賞について ・令和3年度優良PTA群馬県教育委員会表彰の受賞について ・令和3年度高崎市立学校卒業式等の日程について
2月10日(木) 午後3時30分～	<ol style="list-style-type: none"> 1 令和4年度高崎市教育行政方針について 2 令和3年度高崎市一般会計補正予算（3月議会提出分）教育費見積書の提出について 3 県費負担教職員の人事について 報告 <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度群馬県教職員表彰の受賞について ・令和3年度高崎市教育センター「春の教育セミナー」の開催について
3月17日(木) 午後2時～	<ol style="list-style-type: none"> 1 高崎市教育委員会請願処理規則等の一部改正について 2 高崎市教育委員会組織規則の一部改正について 3 高崎市陶芸体験施設牛伏窯設置及び管理に関する条例施行規則の一部改正について 4 職員の人事について

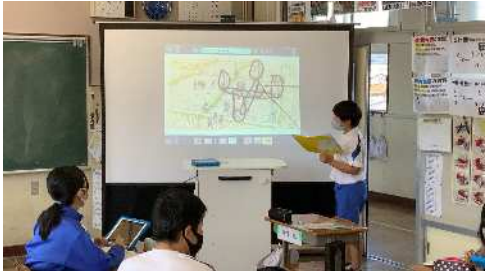
IV 点検・評価結果


点検・評価シート


施策の視点	1 生涯学び続け、心豊かにたくましく生きぬく子どもの育成 《義務教育までの教育に関する取組》	担当課
		教職員課 学校教育課 教育センター
取組	1-1-1 教育機関の連携強化 1-1-2 学力向上への取組 1-1-3 いじめ対策の更なる強化 1-1-4 ゆとりある創造的な教育 1-1-5 家庭地域との連携強化 1-1-6 子どもを伸ばす教師力の向上 1-1-7 特別支援教育の充実 1-1-8 教育に関する研究調査及び研修、相談活動の充実 1-1-9 学校の活性化と一人ひとりの子どもを生かす教育の推進	

事業名	幼・保・小連携推進事業（取組 1-1-1）							
事業の目的	公私立の別なく、幼稚園、保育所（園）、認定こども園の連携を深めて幼児教育の充実を図るとともに、幼稚園、保育所（園）、認定こども園と小学校の連携を深め、子どもたちが幼稚園や保育所（園）、認定こども園から小学校への円滑な移行ができるようにする。							
実施状況	<p>全公立・私立幼稚園、保育所（園）、認定こども園、小学校で組織する幼保小連絡協議会では、市内を13ブロックに分け、公開保育・授業や保育・授業研究会、実技研修会、教育講演会等を実施している。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から活動を見合わせたが、3年度は、教育講演会をオンデマンドにより実施した。</p> <p>◆「研修会等の内容に満足した」と答えた割合</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和3年度</td> <td>90%</td> <td>97.7%</td> </tr> </tbody> </table>		年度	目標	実績	令和3年度	90%	97.7%
年度	目標	実績						
令和3年度	90%	97.7%						
評価検証	令和3年度は新しい形式の研修会を検討し、2年度に実施できなかった教育講演会をオンデマンドにより実施した。「幼保小の連続性の考え方について」をテーマに、都丸千寿子氏による講演をオンデマンド配信することによって、各校園の研修に活用してもらうことができた。研修内容を共有することによって、幼保小が互いの取組やその連続性について理解を深める機会となり、講演会後のアンケートでは、「研修会等の内容に満足した」と答えた割合が97.7%となった。							

今後の方針	<p>幼稚園・保育所（園）・認定こども園・小学校の連携は、今日的教育課題で重要性が大きい。次年度は、組織の枠を超えた連携がより一層深まることをねらいとし、職員の情報交換を実施することとした。</p> <p>幼稚園・保育所（園）・認定こども園・小学校の職員が、互いに理解し合える機会を設けて交流を深め、新しい形式での研修を実施することができるよう、引き続き事業を推進し、幼児教育の充実に努める。</p>
-------	--

事業名	子どもの学ぶ意欲向上事業（取組1-1-2）								
事業の目的	確かな学力の向上を図るために、単元構想に基づく個に応じたきめ細かな指導を実践し、児童生徒がわかる授業づくりを充実する。								
実施状況	<p>教師の専門性を生かした教科担任制、学習の場面や児童生徒の実態に応じた少人数指導やチームティーチングなど、指導体制の工夫を組織的に行い、個に応じたきめ細かな指導に努めた。</p> <p>また、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を推進するため、計画訪問や授業研究要請訪問、出前講座等を通して、単元構想及び学習過程スタンダードに基づく授業づくりを支援し、教師の授業力の向上に努めた。</p> <p>1人1台タブレット端末の活用については、令和2年度に作成・発行した「高崎GIGAスクール構想における授業実践」を活用して、効果的な活用事例を紹介するとともに、教員に対する研修を行った。</p> <p>◆「授業がわかる」と答えた児童生徒が 8割以上いる学校の割合</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>99%</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  <p>タブレットを活用した社会の授業</p> </div>	年度	実績	令和元年度	100%	令和2年度	99%	令和3年度	100%
年度	実績								
令和元年度	100%								
令和2年度	99%								
令和3年度	100%								
評価検証	<p>組織としての力を生かした取組や、単元を見通した主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善などを通して学力向上に努めた結果、「授業がわかる」と答えた児童生徒が8割以上いる学校の割合が100%となった。</p> <p>各学校では、校内研修においてタブレット端末を活用した授業改善に取り組み、研究授業や授業検討会を通して、効果的な活用に関する研修を進めることができた。</p>								
今後の方針	<p>確かな学力の向上は本市学校教育の重点課題である。今後も、単元構想及び学習過程スタンダードを生かした主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を推進し、児童生徒が主体的に学び、一人ひとりがわかる授業づくりを充実させていく。</p> <p>また、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けて、「タブレット端末を活用した授業実践例（仮）」の作成・発行等を行い、タブレット端末の有効活用を市全体に推進していく。</p>								

事業名	児童生徒の学力補充事業（取組 1-1-2）						
事業の目的	児童生徒の学力を確かなものにするため、授業時間以外にもさまざまな機会をとらえて学力補充に取り組む。						
実施状況	<p>例年、夏季休業を利用して、英語に慣れ親しませるとともに、英語力の向上を目的に、小学生を対象とした「イングリッシュフェスタ」と中学生を対象とした「イングリッシュサマースクール」を実施しているが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。</p> <p>2学期中の日曜日を利用して、数学への興味・関心を高めることを目的に、中学生を対象とした「チャレンジ・ザ・日本ジュニア数学オリンピック」講座を6回開催した。</p> <p>◆「満足した」と答えた児童生徒の割合</p> <table border="1" data-bbox="375 734 922 835"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和3年度</td> <td>90%</td> <td>95%</td> </tr> </tbody> </table>  <p>「チャレンジ・ザ・日本ジュニア数学オリンピック」講座の様子</p>	年度	目標	実績	令和3年度	90%	95%
年度	目標	実績					
令和3年度	90%	95%					
評価検証	「チャレンジ・ザ・日本ジュニア数学オリンピック」講座では、数学専門教師を活用することで、事業内容の充実を図ることができた。事業に参加した生徒からは、数学の学習に対する高い意欲が伺えた。						
今後の方針	<p>教科の学習に興味・関心を持たせ、学力を更に伸ばしていくことは、確かな学力の向上を目指す本市の重点課題である。各事業の内容の充実を図るとともに、事業を更に周知することや魅力ある講師をそろえることで、より多くの児童生徒が目的をもって事業に参加し、児童生徒の学力向上につながるよう努めたい。</p> <p>今後は、「イングリッシュフェスタ」及び「イングリッシュサマースクール」について、タブレット端末を活用したオンラインによる実施を進めていく。</p>						

事業名	英語教育指導事業（取組 1-1-2）																								
事業の目的	英語に興味や関心をもち、英語学習に意欲的に取り組む児童生徒を育成するため、英語指導助手（ALT）を市内全小中学校・市立高等学校に配置し、実践的なコミュニケーション能力の育成を図る。																								
実施状況	<p>年度当初は27名のJETプログラムによるALTが来日できなかったため、小学校58校、中学校25校、高等学校1校へ複数校掛け持ちする臨時的配置を行った。ALT招致の再開と臨時ALTの任用により、常に全校でALTによる授業実施ができる体制を整え、英語を通したコミュニケーション能力の育成に努めた。</p> <p>◆ALTの配置数</p> <table border="1" data-bbox="368 678 914 875"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度</td> <td>84人</td> <td>84人</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>84人</td> <td>71人</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>84人</td> <td>84人</td> </tr> </tbody> </table>  <p>ALTを活用した小学校での授業の様子</p> <p>◆ALTによる延べ授業時間数</p> <table border="1" data-bbox="368 972 1177 1169"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度</td> <td>50,192時間</td> <td>50,285時間</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>50,062時間</td> <td>43,817時間</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>50,285時間</td> <td>44,963時間</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	令和元年度	84人	84人	令和2年度	84人	71人	令和3年度	84人	84人	年度	目標	実績	令和元年度	50,192時間	50,285時間	令和2年度	50,062時間	43,817時間	令和3年度	50,285時間	44,963時間
年度	目標	実績																							
令和元年度	84人	84人																							
令和2年度	84人	71人																							
令和3年度	84人	84人																							
年度	目標	実績																							
令和元年度	50,192時間	50,285時間																							
令和2年度	50,062時間	43,817時間																							
令和3年度	50,285時間	44,963時間																							
評価検証	<p>小学校では、担任等とALTとのチームティーチングを通して、英語や外国の文化・習慣に慣れ親しみ、コミュニケーションへの興味・関心の高揚を図った。また、全小学校が教育課程特例校となり、中学校とのつながりを踏まえた指導計画に基づき、9年間を見通した英語教育を進めることができた。</p> <p>中学校では、英語担当教諭とALTとのチームティーチングを通して、生徒の実践的コミュニケーション能力や積極的にコミュニケーションをしようとする態度の育成とともに、4技能をバランスよく育成するための授業改善を進め、英語担当教員の指導力の向上を図った。</p> <p>これらの取組により、4技能型外部試験（GTEC）では、昨年度を上回る好成績となっている。</p> <p>また、コロナ禍においてもALTの研修をオンラインで実施する等の工夫を行うことによって、ALTの指導力を向上させ、英語教育の充実を図ることができた。</p>																								
今後の方針	<p>英語に興味・関心をもち、英語の活動や学習に意欲的に取り組み、英語を用いたコミュニケーション能力の基礎を身に付けた児童生徒を育成するために、ALTの研修を重ね、質の向上に努めるとともに、小中高等学校における英語教育の充実を図っていく。また、小学校においては、教育課程特例校として「高崎市小学校外国語活動・外国語指導計画」に基づき英語教育を推進していく。</p>																								

事業名	学力アップ推進事業（取組 1-1-2・1-1-5）																					
事業の目的	各学区において、地域運営委員会による学習会や9地区での中学生休日学習相談ステーションを開催し、保護者や地域、学生など地域の教育力を活用して、放課後や休日を利用した児童生徒の学力向上に向けた取組を推進する。																					
実施状況	<p>市内全ての小中学校区において、地域運営委員会を開催した。地域の教育力を活用し、児童生徒に対して、放課後や土曜日等に学習の時間と場所を提供し、各学区で、新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら、学力向上対策の学習会（学力アップ大作戦）を実施した。例年、4月と2月に、地域運営委員会の代表を集め、取組状況について情報交換したり、それぞれの地域運営委員会で抱える課題について話し合ったりする全体会は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止にした。また、コロナ禍での進捗状況を定期的に調査し、各地域運営委員会の状況を把握し、次年度の市全体での計画を立てた。</p> <p>中学生休日学習相談ステーションについては、毎週日曜日の午後1時30分～4時30分の間、市内9つの公民館等を利用し、5月から2月末まで市内中学在校生なら誰でも参加できる学習の場を提供している。講師は大学生等のボランティアが務め、数学・英語の教科について学習の相談を行っている。</p> <p>◆学力アップ大作戦参加児童生徒数及び延べ開催回数</p> <table border="1" data-bbox="371 1010 970 1160"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th colspan="2">実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年度</td> <td>33,874人</td> <td>1,356回</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>36,255人</td> <td>1,500回</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆学力アップ大作戦への地域ボランティアの参加者数</p> <table border="1" data-bbox="371 1256 770 1406"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年度</td> <td>8,477人</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>11,533人</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆中学生休日学習相談ステーション参加生徒数</p> <table border="1" data-bbox="371 1503 770 1653"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年度</td> <td>443人</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>460人</td> </tr> </tbody> </table> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div data-bbox="437 1704 823 1995" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="995 1704 1369 1989" data-label="Image"> </div> </div>	年度	実績		令和2年度	33,874人	1,356回	令和3年度	36,255人	1,500回	年度	実績	令和2年度	8,477人	令和3年度	11,533人	年度	実績	令和2年度	443人	令和3年度	460人
年度	実績																					
令和2年度	33,874人	1,356回																				
令和3年度	36,255人	1,500回																				
年度	実績																					
令和2年度	8,477人																					
令和3年度	11,533人																					
年度	実績																					
令和2年度	443人																					
令和3年度	460人																					

<p>評価検証</p>	<p>コロナ禍により、実施回数を減らしたり、参加人数を制限したりしながらも、すべての学校区で実施することができ、参加児童生徒数や開催回数等も増加した。また、全ての学校区の地域運営委員会の代表が参加する全体会は実施できなかったが、各学校の進捗状況を定期的に調査することで、各地域運営委員会への支援を行うことができた。</p> <p>中学生休日学習相談ステーションは、9か所の会場を全て固定した平成30年度より1回あたりの参加人数は毎年増加しており、令和3年度についても、コロナ禍で実施回数を減らしたにもかかわらず、利用生徒が増加した。検温や座席間を空ける等の感染症対策を徹底し、安心して参加できる環境を提供したことが要因かと思われる。</p>
<p>今後の方針</p>	<p>学力アップ大作戦は、より地域の実情に応じて事業を実施できるよう、地域運営委員会に委託している。今後も、児童生徒の確かな学力の向上に向けて、地域や家庭との連携を更に進め、地域の教育力を生かして取組内容の充実を図っていく。</p> <p>中学生休日学習相談ステーションは、ボランティア講師の確保が急務であり、大学生を中心に呼びかけを行っていく。また、より多くの生徒が参加できるよう、タブレット端末を活用した周知等、各中学校からの工夫した呼びかけを行っていく。</p>

事業名	いじめ防止対策事業（取組1-1-3）
事業の目的	児童生徒が安心して生活できる学校づくりを目指して、いじめ防止に焦点を当てた教育活動を推進する。
実施状況	<p>平成24年度から「いじめ防止プログラム」による取組を小中高一斉に行っており、教育委員会では、以下の取組等を推進してきた。</p> <p>○いじめ防止担当教諭研修会の実施 研修会では、学校生活における「いじめの芽」を早期に発見する視点や感性を磨く研修を例年2回実施しているが、令和3年度はオンラインで実施した。</p> <p>○子どもを対象とした「いじめ防止子ども会議」「中学生リーダー研修会」 「いじめ防止子ども会議」では、例年各小中学校の代表者による話し合いを通して新たな提言をつくっており、令和3年度はタブレット端末を学習で有効に使うためのルールを策定した。「中学生リーダー研修会」では、各中学校でタブレット端末を使用したいじめを防止するための方策について情報交換を行った。いずれも、オンラインで実施した。</p> <p>○いじめ防止ファイルの作成・配布</p> <p>これらの取組を継続的に実施しながら、子どもたちがいじめの持つ問題性に気づき、いじめをなくすには自分たちはどうしたらよいかを考え、子ども一人ひとりの規範意識の醸成を図ることを通して、いじめの未然防止に結び付けている。</p> <div data-bbox="1002 1171 1369 1444" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">令和3年度いじめ防止子ども会議 オンラインでの協議の様子</p>
評価検証	<p>いじめ防止対策推進法に基づく対応が適切に行われなかったことで事態が悪化した事例が県外で複数発生していることを受けて、「いじめ防止担当教諭研修」では、法に基づくいじめの認知と対応について判例等を基にして研修を行った。教職員の意識を高めることができ、児童生徒や保護者が安心して通える学校づくりにつながった。</p> <p>また、「中学生リーダー研修会」で策定した「高崎ルール タブレットバージョン」は1人1台タブレット端末が学習のためのものであることを再確認し、タブレットいじめの防止や情報モラル、健康面に配慮した情報機器の利用等に関する意識を高めることができた。</p>

<p>今後の方針</p>	<p>いじめ防止の取組を形骸化しないためには「継続」が必要である。令和3年度までの取組で、多くの成果物ができているが、それらが学校生活で継続的に活用できるように、再評価し、掘り下げていく必要がある。</p> <p>また、保護者や地域への発信により、学校、家庭、地域が連携・協働したいじめ防止活動を推進していくことも求められる。</p> <p>さらに、インターネット上の表面化しにくい事象や、発達に障害を抱えた子どもが関わる事象、海外から帰国した子どもや外国人の子どもが関わる事象、性同一性障害や性的指向・性自認に関わる事象、災害により被災した子ども又は避難している子どもに対する事象、新型コロナウイルス感染症に関わる事象等のいじめの未然防止及び早期発見・早期解決のために、これらの内容に関する教職員研修をより充実させていきたい。</p>
--------------	--

事業名	やるベンチャーウィーク推進事業（取組 1-1-4）																
事業の目的	生きる力、豊かな心を育成するため、中学2年生を対象に地域や自然の中での職場体験や福祉ボランティア体験など、生徒の関心に応じた体験活動を実施する。																
実施状況	<p>例年、市内全ての中学2年生を対象とし、自己の生き方を探求する場として、原則として月曜日から金曜日までの連続した5日間、事業所での体験活動を行っている。令和3年度もキャリア教育の考え方を取り入れながら、職場体験や福祉・ボランティア体験、地域の文化体験などの活動を計画していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、総合的な学習の時間を中心に各学校にて代替活動を行った。</p> <p>◆参加生徒数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度</td> <td>3,109人</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆「役に立った」と答えた生徒の割合</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度</td> <td>99%</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績	令和元年度	3,109人	令和2年度	—	令和3年度	—	年度	実績	令和元年度	99%	令和2年度	—	令和3年度	—
年度	実績																
令和元年度	3,109人																
令和2年度	—																
令和3年度	—																
年度	実績																
令和元年度	99%																
令和2年度	—																
令和3年度	—																
評価検証	コロナ禍により、各事業所での生徒の受入ができないこと、生徒や事業所、事業所に関わる人々の安全確保の観点から、事業所での活動に代えて外部講師による職業講話や、フードドライブの実施やエコ石鹸の制作等、地域のSDGsについての取組を学ぶなど、各中学校で工夫した代替活動を行うことができた。																
今後の方針	コロナ禍により、今後も事業所での受入ができないことが考えられるため、実施期間等の弾力的な対応を行っていく。また、子ども一人ひとりの社会への接続や「働くこと」の現実や必要な資質・能力を子ども自身が意識できるよう事業の内容についても検討していく。																


事業名	「気になる子」対策事業（取組 1-1-4）																				
事業の目的	幼稚園において特別な支援を必要とする「気になる子」の教育環境の充実を図り、きめ細やかな教育に対応する各園の取組を支援する。																				
実施状況	<p>気になる子対策補助金（私立幼稚園）</p> <p>市内の私立幼稚園に対し、以下のとおり助成した。認定こども園に移行した幼稚園があるため、園数は減少している。</p> <p>◆助成した園数と金額</p> <table border="1" data-bbox="367 537 1077 739"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>園数</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度</td> <td>12 園</td> <td>9,960,000 円</td> </tr> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>10 園</td> <td>8,280,000 円</td> </tr> <tr> <td>令和 3 年度</td> <td>8 園</td> <td>7,080,000 円</td> </tr> </tbody> </table> <p>学校支援員の配置（公立幼稚園）</p> <p>幼児一人ひとりが楽しく有意義に園生活が送れるよう、支援を必要とする幼児に寄り添ったり、学級又は学年全体の中で困っている幼児の援助をしたりと各園の実態に応じ、活用されている。</p> <p>◆学校支援員配置数</p> <table border="1" data-bbox="367 1075 798 1276"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度</td> <td>12 人</td> </tr> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>13 人</td> </tr> <tr> <td>令和 3 年度</td> <td>12 人</td> </tr> </tbody> </table>	年度	園数	金額	令和元年度	12 園	9,960,000 円	令和 2 年度	10 園	8,280,000 円	令和 3 年度	8 園	7,080,000 円	年度	実績	令和元年度	12 人	令和 2 年度	13 人	令和 3 年度	12 人
年度	園数	金額																			
令和元年度	12 園	9,960,000 円																			
令和 2 年度	10 園	8,280,000 円																			
令和 3 年度	8 園	7,080,000 円																			
年度	実績																				
令和元年度	12 人																				
令和 2 年度	13 人																				
令和 3 年度	12 人																				
評価検証	<p>私立幼稚園における「気になる子」への対応として、教職員の配置人数の増員や少人数クラス編成等を行い、保育環境の充実も図った。</p> <p>公立幼稚園では、学校支援員の活用により、特別な支援を必要とする幼児の園生活上の問題解決と遊びや生活指導の充実を図った。教員以外の人員配置により、園の実情に応じた必要な形で幼児への支援を行っている。</p>																				
今後の方針	<p>障害の有無にかかわらず、一人ひとりの幼児に応じた支援や指導の必要性及び重要性が増している。今後も引き続き、本事業を実施し、私立幼稚園における保育環境の充実を図っていく。また、公立幼稚園においては、学校支援員の計画的な活用や資質の向上を図っていく。</p>																				


事業名	読書活動推進事業（取組 1-1-4）						
事業の目的	学校図書館の「読書センター」「学習・情報センター」としての機能を充実させるために、全小・中・特別支援学校に学校図書館指導員を配置し、学校での読書活動を支援し、学校図書館を活用した学習活動を推進する。						
実施状況	<p>平成20年告示の学習指導要領で、学校図書館への読書センター、学習・情報センターとしての機能がこれまで以上に求められたことを受け、23年度から各学校図書館の機能を更に高めるため、市の臨時職員として「学校図書館指導員」を全校に配置している。</p> <p>「学校図書館指導員」は、校長の指揮監督の下、学校図書館における図書の受入れ及び整理、児童生徒への図書の貸出し及び返却、学校図書館及び準備室の環境整備、読書活動の支援及びレファレンスなどを行っている。</p> <p>◆教員と学校図書館指導員が連携した授業を実施した学校の割合</p> <table border="1" data-bbox="370 779 1008 880"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和3年度</td> <td>100%</td> <td>90.7%</td> </tr> </tbody> </table> <div data-bbox="1029 922 1401 1200" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="1050 1211 1378 1238">共通のテーマで集めた書籍を展示</p>	年度	目標	実績	令和3年度	100%	90.7%
年度	目標	実績					
令和3年度	100%	90.7%					
評価検証	<p>各学校においては、職員や図書委員によるおすすめ本の紹介を始め、ビブリオバトル、ブックトークなど学校図書館指導員を核として多岐にわたる取組が行われている。また、共通のテーマで集めた書籍を展示することで、児童生徒が季節の移ろいを感じられるようにしたり、社会への興味関心を高めたりする工夫を行っている。</p> <p>教員と学校図書館指導員とが連携した授業については、国語科や社会科、総合的な学習の時間を中心に行われており、学校図書館を活用することにより、子どもたちの主体的な学びや効果的な学習活動につながっている。</p>						
今後の方針	平成29年告示の学習指導要領では、「学習・情報センター」としての役割がより一層求められるようになっている。また、複数の教科の学習指導要領で授業における新聞の活用が謳われている。今後も環境整備と情報提供を進めるとともに、学校図書館指導員の研修機会を更に充実させていく。						

事業名	学校・家庭・地域連携事業（取組 1-1-5）						
事業の目的	地域住民や保護者が有している知識・技術等を活用し、児童生徒の体験等を通じた学びを実現するとともに、開かれた学校づくりを推進していく。						
実施状況	<p>児童生徒の体験等を通じた学びを充実するとともに、開かれた学校づくりを目的として、多くの学校で、地域人材を活用した授業等を実施している。内容は、読み聞かせや、体育指導、農業体験補助、日本文化体験等、多岐にわたっている。</p> <p>また、各学校・園の研修テーマ等に沿った講師を招聘し、校・園内研修の充実を図るとともに、児童生徒への効果的な指導につなげている。内容は、各教科等の指導、プログラミング教育、人権教育等、多岐にわたっている。</p> <p>なお、全小中学校において、学校評員制度から学校運営協議会制度への移行が令和4年度中に完了する。</p> <p>◆地域人材を活用している学校の割合</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和3年度</td> <td>80%</td> <td>57%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	令和3年度	80%	57%
年度	目標	実績					
令和3年度	80%	57%					
評価検証	半数程度の学校で、感染症対策を講じながら地域人材を活用した授業等を実施している。開かれた学校づくりや地域社会との連携・協働に向けた教育活動の工夫・改善が進み、活用内容が多様化してきている。令和3年度はGIGAクール構想に基づく1人1台タブレット端末の導入時に地域人材を活用した学校が12校あり、教員との連携により、小学校低学年児童に対する文字入力等基本操作に関する指導を行い、効果を上げた。						
今後の方針	今後も講師の方々に安心して活動していただけるよう、感染症対策を徹底した上で地域人材の活用を進めていく。地域人材を活用する際のねらいを明確にし、より効果的な活用につなげていく。						

事業名	学校教育力向上対策事業（取組 1-1-6）												
事業の目的	子どもたちの生きる力を育成するため、人権教育講演会を開催し、教職員の質的向上を図る。												
実施状況	<p>令和3年8月5日、女優・司会者の高田敏江氏を講師として招き、市内教職員を対象に人権教育講演会を開催した。県の危機管理課に事前相談し、新型コロナウイルス感染拡大防止対策チェックリストの項目に沿って点検を行った上で、感染症対策を徹底した上で実施した。講演の様子を録画したDVDを貸し出すことで、校内研修等の時間に視聴できるようにした。</p> <p>◆研修参加者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度</td> <td>1,800人</td> <td>1,750人</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>1,800人</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>1,800人</td> <td>732人</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	令和元年度	1,800人	1,750人	令和2年度	1,800人	—	令和3年度	1,800人	732人
年度	目標	実績											
令和元年度	1,800人	1,750人											
令和2年度	1,800人	—											
令和3年度	1,800人	732人											
評価検証	<p>新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、複数の案を作成・検討した上で、感染症の不安やリスクを極力抑えながら最大限の規模で実施することができた。参加者からは、講師の朗読劇に感激したという声が多く聞かれ、教職員の質的向上に資する研修会となった。また、当日参加できなかった教職員に対して校内研修を行った学校もあった。</p>												
今後の方針	<p>本市の未来を担う子どもたちに生きる力を育成するため、教職員研修を質的に充実させ、教職員の資質向上を図っていく。</p> <p>また、感染症の拡大状況等を鑑みて、オンラインでの開催やオンラインとのハイブリッドでの開催など、新しい生活様式に合わせた教職員研修の方法について検討していく。</p>												

事業名	通級指導教室推進事業（取組1-1-7）																								
事業の目的	支援を必要とする児童生徒に、通級指導教室において、障害の軽減・改善に向けた指導を実践する。また、保護者や担任への相談活動を充実していく。																								
実施状況	<p>心身に軽度の障害（言語、聴覚、情緒、LD、ADHD、自閉症スペクトラム等の発達障害）がある幼児、児童生徒に対して、障害の程度や特質等を把握し、その軽減と改善を図るための指導・援助を市内6教室（中央教室、中居教室、城山教室、金古教室、堤ヶ岡教室、下室田教室）で実施した。</p> <p>◆改善により退級した児童生徒数 ◆通級児童生徒数</p> <table border="1" data-bbox="373 595 743 792"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度</td> <td>77人</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>53人</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>66人</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="852 595 1441 792"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>中学生</th> <th>小学生</th> <th>幼児</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度</td> <td>80人</td> <td>544人</td> <td>57人</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>95人</td> <td>549人</td> <td>86人</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>106人</td> <td>569人</td> <td>60人</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績	令和元年度	77人	令和2年度	53人	令和3年度	66人	年度	中学生	小学生	幼児	令和元年度	80人	544人	57人	令和2年度	95人	549人	86人	令和3年度	106人	569人	60人
年度	実績																								
令和元年度	77人																								
令和2年度	53人																								
令和3年度	66人																								
年度	中学生	小学生	幼児																						
令和元年度	80人	544人	57人																						
令和2年度	95人	549人	86人																						
令和3年度	106人	569人	60人																						
評価検証	<p>通級による指導により、子ども一人ひとりの教育的ニーズに応じて、障害の軽減・改善のための指導が行われた。通常の学級における授業においてもこの指導の効果が期待できる。</p> <p>通級による指導を充実させるために、中央教室を中核として様々な研修等が実施された。さらに、各教室でも指導教員のスキルアップを図るための研修や在籍校との情報共有を行い、児童生徒一人ひとりの実態に応じたきめ細かな指導ができるよう努めた。令和2年度は、4月及び5月の休校や、感染症対策による発音指導等の制限のため「改善により退級した児童生徒数」が減少したが、3年度に増加したのは、指導教員が感染症対策をとりながら、工夫して指導に取り組んだ結果であると考えられる。</p> <p>また、2年度から新設された堤ヶ岡教室に中学生が通室できるようになり、個別指導を中心とした特別の指導をきめ細かにできるようになっている。</p>																								
今後の方針	<p>通常学級に在籍する心身に軽度の障害（言語・聴覚・情緒・LD・ADHD・自閉症スペクトラム等の発達障害）のある児童生徒で通級の指導を望む数は年々増加している。今後もこの事業を推進することで、特別な支援を必要とする児童生徒の障害の軽減・改善を図っていく。</p> <p>また、通級による指導の効果が通常の学級においても表れるように、通級担当者と学級担任が十分な情報交換をしながら、児童生徒への適切な指導及び必要な支援を行っていく。</p>																								

事業名	教育調査研究・研修事業（取組 1-1-8・1-1-9）																					
事業の目的	学校教育に関連するさまざまな教育課題に対する調査研究や課題解決に向けた研修を実施し、教職員の資質の向上を図る。																					
実施状況	<p>高崎市教育センター人材育成研修システムに基づき、教員のライフステージに応じた研修（経年研修、職能研修、専門研修等）を実施した。また、ミドルリーダー育成を目指し、長期研修や特別研修等の研究員研修も年間を通じ実施した。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響で、一部従来のセンター研修（対面・集合型）が行えず、オンラインによる研修に変更せざるを得なかったが、オンライン研修であっても効果的なものになるよう内容を組み替え、受講者同士で交流ができるようなアプリケーションを使用したことで、目標を上回る参加者数となった。</p> <p>◆研修への参加者数</p> <table border="1" data-bbox="367 734 930 931"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度</td> <td>7,500人</td> <td>6,878人</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>7,000人</td> <td>4,263人</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>7,000人</td> <td>7,320人</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆「充実した研修内容である」と答えた受講者の割合</p> <table border="1" data-bbox="367 1077 778 1274"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度</td> <td>96%</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>97%</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>96%</td> </tr> </tbody> </table>  <p>オンラインによる研修講座受講の様子</p>		年度	目標	実績	令和元年度	7,500人	6,878人	令和2年度	7,000人	4,263人	令和3年度	7,000人	7,320人	年度	実績	令和元年度	96%	令和2年度	97%	令和3年度	96%
年度	目標	実績																				
令和元年度	7,500人	6,878人																				
令和2年度	7,000人	4,263人																				
令和3年度	7,000人	7,320人																				
年度	実績																					
令和元年度	96%																					
令和2年度	97%																					
令和3年度	96%																					
評価検証	<p>対面・集合型の研修が実施できない場合でも中止にせず、オンラインによる研修に変更したため、研修への参加者数に大きな減少は見られなかった。なお、オンライン研修では勤務地で研修に参加できるため、参加しやすさにもつながったと考える。受講後のアンケートでは「充実した研修内容である」と答えた受講者の割合も96%となった。</p> <p>また、2月実施の「春の教育セミナー」では、HPや各種SNSにより、教育関係者はもとより出版社や教材会社等、全国の方々へ広く参加を呼びかけた。その結果、全国の方々に高崎市教育センターの取組を知っていただくとともに、様々な立場の方々と学校教育や今日の教育課題等について意見を交わすことができた。</p>																					
今後の方針	<p>研修のニーズを的確に把握し、人材育成研修システムに基づいた質の高い研修講座を実施することで、教職員の資質の向上をより図っていく。</p> <p>対面・集合型による研修とオンラインによる研修を併用し、参加者にとってより効果的な研修になるよう進めていく。</p>																					

事業名	教育支援センター推進事業（取組1-1-8）						
事業の目的	不登校児童生徒を対象に学習指導や体験活動、定期的な保護者への面談、在籍校との連携等を実施し、児童生徒の社会的自立を援助する。						
実施状況	<p>市内8教室において、指導員19人とボランティア相談員6人で、学校、保護者と連携を図りながら、不登校児童生徒の社会的自立を目指し、学習指導や体験活動、カウンセリング等を行った。8教室合同での行事（ものづくり体験学習、社会科体験学習等）を実施予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止とし、代わりに教室ごとに行事（市内施設めぐりや、県立自然史博物館、県立歴史博物館等による出前授業）を実施した。</p> <p>また、令和3年度より児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することを目指す必要があることから、適応指導教室の名称を教育支援センターに変更した。名称の変更に伴い、小学校低学年の児童や特別な支援を必要とする児童生徒の入室依頼について、基本的に受け入れていく方針とし、多様化する不登校児童生徒の状況や要望に応じて、柔軟な支援による居場所づくりの充実を図った。</p> <p>◆通室日数と登校日数の合計が、通室開始当初と比べて増加している人数の割合</p> <table border="1" data-bbox="365 1021 817 1171"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年度</td> <td>54%</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>63%</td> </tr> </tbody> </table>  <p>教室別行事（化石レプリカづくり）</p>	年度	実績	令和2年度	54%	令和3年度	63%
年度	実績						
令和2年度	54%						
令和3年度	63%						
評価検証	<p>令和3年度市内小中学校の不登校児童生徒795人のうち、133人が教育支援センターへ通室し、中学3年生の28人全員が進路を決定することができた。</p> <p>8教室合同行事の代替として行った教室別行事は大変充実した内容であり、好評であった。児童生徒の日々の活動への意欲向上につながった。</p>						
今後の方針	<p>学校や保護者、福祉機関等との連携を図り、多様化する不登校児童生徒の状況や要望に応じて、柔軟な支援による居場所づくりの充実を図る。</p> <p>子どもの支援にあたる指導員の研修の充実と、子どもと保護者の心に寄り添ったスキルの高いきめ細かい支援を行う。</p>						

点検・評価シート

施策の視点	1 生涯学び続け、心豊かにたくましく生きぬく子どもの育成 《高崎経済大学附属高等学校に関する取組》	担当課
		高崎経済大学 附属高等学校
取組	1-2-1 確かな学力の確立 1-2-2 キャリア教育の推進 1-2-3 国際理解教育の推進	

事業名	学力向上推進事業（取組1-2-1）																								
事業の目的	確かな学力の確立のために、少人数学級による授業やシラバスに沿った授業を行うとともに、発展的・対話的な深い学びを実現するための時間を確保することで、中学校における普通教育の基礎の上に、心身の発達及び進路に応じた高度な普通教育を行う。また、教員の授業指導力向上セミナー派遣等の取組を行い、授業改善による確かな学力の向上を図る。																								
実施状況	<p>全学級が35人を基本としたクラス編成を行うとともに、選択制を取り入れた教育課程を編成し、発展的・補足的な学習を行った。また、シラバスに学習の方針を明記し、校訓にも謳われている「自学自習」の学習の目安として生徒に提示した。</p> <p>芸術コースの音楽系・美術系の生徒には、教員5人のほかに19人の非常勤講師による専門教育を実施するとともに個別指導の充実を図っている。</p> <p>各教科から8名の教員が、予備校の主催する教員授業力向上セミナーに参加した。</p> <p>◆セミナー等への派遣が「役に立った」と答えた教員の割合</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年度</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆興味・関心を引き出し、学力の向上に役立つ授業が行われていると考える生徒の割合</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年度</td> <td>86.7%</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>87.7%</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆主体的・協動的な学習を取り入れていると考える生徒の割合</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年度</td> <td>91.5%</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>87.8%</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆発表する場面で、表現力の育成に努めていると考える生徒の割合</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年度</td> <td>85.9%</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>83.8%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績	令和2年度	100%	令和3年度	100%	年度	実績	令和2年度	86.7%	令和3年度	87.7%	年度	実績	令和2年度	91.5%	令和3年度	87.8%	年度	実績	令和2年度	85.9%	令和3年度	83.8%
年度	実績																								
令和2年度	100%																								
令和3年度	100%																								
年度	実績																								
令和2年度	86.7%																								
令和3年度	87.7%																								
年度	実績																								
令和2年度	91.5%																								
令和3年度	87.8%																								
年度	実績																								
令和2年度	85.9%																								
令和3年度	83.8%																								

<p>評価検証</p>	<p>シラバスに沿った授業を確実に行うことで主体的な学習態度の育成に結び付けることができた。また、感染症対策を講じながら、ペア学習等を取り入れた言語活動重視の授業や、実験・実習等を取り入れた体験活動重視の授業への改善を図り、引き続き、基礎的・基本的な知識及び技能の習得と思考力・表現力の向上を図ることができた。</p> <p>芸術コースでは、個別指導の充実により、生徒一人ひとりの感性を高めることができた。また、オンラインによる教員の授業力向上セミナー参加では、教科指導力が向上し、実践的な技術を身に付けることができた。</p> <p>生徒へのアンケート結果から、今後も実験・実習等を取り入れた体験活動重視の授業への改善を図り、学習内容が自分の進路や社会生活に役立つことを認識させながら、更に生徒が主体的に学習することに充実感を持てるようにするための取組を推進する必要があると考えられる。</p>
<p>今後の方針</p>	<p>思考力、判断力、表現力はもちろんのこと、学ぶ意欲や自ら学ぶ姿勢等を含めた確かな学力を育成するため、引き続き、各事業の推進を図る。</p>

事業名	キャリア教育推進事業（取組1-2-2）																				
事業の目的	地域、産業界、大学等との連携を図り、体験活動を中心とした学習を積極的に取り入れることで、社会事象に対する興味・関心を高め、知識をもとに思考・判断する力、表現する力を身に付けさせるとともに、人間関係形成能力や自己管理能力、課題解決力、キャリアプランニング力等の基礎的・汎用的能力を身に付けることができるようキャリア教育を推進する。																				
実施状況	<p>オンラインによる企業訪問等を工夫し、職業人を講師とした講演会や体験活動を実施した。また、高崎経済大学との高大連携においても、対面とオンラインによるハイブリッドでの交流を促進し、大学のゼミに参加して大学生と一緒に活動する機会を設けた。</p> <p>◆キャリア教育に係る体験学習の実施回数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度</td> <td>62回</td> <td>67回</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>54回</td> <td>53回</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>67回</td> <td>71回</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆体験学習が「役に立った」と答えた生徒の割合</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	令和元年度	62回	67回	令和2年度	54回	53回	令和3年度	67回	71回	年度	実績	令和元年度	100%	令和2年度	100%	令和3年度	100%
年度	目標	実績																			
令和元年度	62回	67回																			
令和2年度	54回	53回																			
令和3年度	67回	71回																			
年度	実績																				
令和元年度	100%																				
令和2年度	100%																				
令和3年度	100%																				
評価検証	<p>令和2年度と同様にオンラインの特性（遠隔のヒトや企業と簡単につながるができる）を生かした取組を実施した。</p> <p>1年次の総合的な探究の時間において、オンライン会議システムを用いて卒業生から大学について話を聞く会を開催した。高大コラボゼミでは「大学における学び」に接することで、高等学校の先を見据えた視点を持つことができた。オンライン会議システムを用いた「企業訪問」では、コロナ禍にも関わらず、大企業の方と交流する機会を得ることができた。コロナ禍でのキャリア教育のあり方が確立され、さらに充実した取組を行うことができた。</p>																				
今後の方針	今後もキャリア教育の一層の充実に努めていく。																				

事業名	国際教育推進事業（取組1-2-3）																				
事業の目的	<p>学習指導要領に基づいて達成されるべき英語力の指標として実用英語能力検定（英検）を利用しながら、高校卒業時に必要なレベルの英語力が身に付くようにする。</p> <p>また、海外研修等の海外における異文化体験を積むことで、コミュニケーション能力の育成を図るとともに、同時代人としてのものの考え方や生活習慣、衣食住文化、社会制度や信条等を学び、異国の文化や伝統を尊重できる感覚を育成する。</p>																				
実施状況	<p>例年どおり全校生徒が英検を受検する機会を設けた。新型コロナウイルス感染症の影響を強く受けた令和2年度と比較して、受検者数自体は増加したものの、複数名の生徒は出席停止などのため受検延期せざるを得ない状況となってしまった。</p> <p>◆英検準2級以上の取得者数(延べ人数)</p> <table border="1" data-bbox="367 763 932 958"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度</td> <td>880人</td> <td>803人</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>880人</td> <td>792人</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>850人</td> <td>790人</td> </tr> </tbody> </table> <p>コロナの影響により、海外派遣は実施できなかったが、7月に上海徐敏芸術創意センター、12月に台湾國立新港芸術高校とオンライン会議システムを用いた国際交流活動を行った。</p> <p>また、夏季休業中には、外国人講師と英語でSDGsやリーダーシップ等について学ぶエンパワーメントプログラムを学校で実施することができ、約30名の生徒が参加した。</p> <p>◆海外派遣事業に参加したことが「役に立った」と答えた生徒の割合</p> <table border="1" data-bbox="367 1296 756 1491"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	令和元年度	880人	803人	令和2年度	880人	792人	令和3年度	850人	790人	年度	実績	令和元年度	100%	令和2年度	100%	令和3年度	100%
年度	目標	実績																			
令和元年度	880人	803人																			
令和2年度	880人	792人																			
令和3年度	850人	790人																			
年度	実績																				
令和元年度	100%																				
令和2年度	100%																				
令和3年度	100%																				
評価検証	<p>全ての生徒が英検を受検し、より上位の資格取得に取り組むことができた。</p> <p>オンライン会議システムを用いた交流会を複数回開催できたことで、限られた条件下で自らの考えを端的にまとめて会話する経験を積み、コミュニケーション技術の向上の一助となったことから、生徒にとって大きな進歩を見出すことができた。</p>																				
今後の方針	<p>国際化する社会に対応できる生徒の育成を目指して、海外交流に参加しようとする生徒を増やすとともに、海外派遣で得られた成果をほかの生徒に広げようとする生徒を増やし、継続して国際教育の充実を図る。</p> <p>引き続き、大学の推薦入試等で合否判定の材料の一つとなる英検2級の取得を目指そうとする意欲の向上に努める。</p>																				

点検・評価シート

施策の視点	2 子どもたちの心身の健康と体力の向上	担当課
		健康教育課
取組	2-1 心と体の健康づくり 2-2 体力の向上と丈夫な体づくり 2-3 自ら身を守る交通安全教育の推進と安全な通学路の確保 2-4 魅力ある学校給食づくり 2-5 自然体験活動を通じた豊かな心の育成	

事業名	児童生徒等健康管理対策事業（取組2-1）										
事業の目的	児童生徒等の健康の保持増進を図るため、疾病・異常を早期に発見し保健教育を実施し治療を促進する。健康診断をすることにより、自己の健康課題に気づき、自ら考え、行動し、心身ともに健康で明るい生活を送れるようにする。										
実施状況	<p>幼児、児童、生徒及び教職員の健康管理の一環として、学校医等による健康診断及び専門機関による検診（貧血検査・尿検査・心臓検診・総コレステロール検査等）を実施し、その結果を受けて保健上必要な指導助言（治療勧告）や保健指導を行った。令和3年度は、新型コロナウイルス感染症に伴う定期健康診断の日程変更もあり、永久歯う歯及び歯肉炎等治療完了者率についての統計調査は実施しなかった。</p> <p>◆永久歯う歯及び歯肉炎等治療完了者率</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">令和元年度</td> <td>小学校 96.6%</td> </tr> <tr> <td>中学校 91.4%</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>統計調査せず</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>統計調査せず</td> </tr> </tbody> </table>		年度	実績	令和元年度	小学校 96.6%	中学校 91.4%	令和2年度	統計調査せず	令和3年度	統計調査せず
年度	実績										
令和元年度	小学校 96.6%										
	中学校 91.4%										
令和2年度	統計調査せず										
令和3年度	統計調査せず										
評価検証	<p>令和3年度は、定期健康診断の日程変更等あったが、11月末までに全ての健康診断が終了した。感染症対策を講じながら、学校医等の協力を得て実施することができた。小学1年生を対象とした巡回歯科指導についても、3年度は12月まで延長し、全ての学校で実施することができた。</p> <p>歯科健診の日程変更により、「歯と口の健康週間行事」は縮小して開催した。「よい歯の子表彰」は中止となったが、「図画・ポスター・標語コンクール特別賞展示」は市庁舎1階ロビーで開催することができた。また、例年より時期を1か月ほど遅らせ、「高崎市歯科保健賞」も実施し、市内3校が奨励賞を受賞した。</p> <p>学校保健統計については、健診の日程変更等により、定期健康診断（科別）受検率、体格の年次推移等は割愛となったが、9月30日までに実施された健診結果について、集計することができた。</p>										
今後の方針	学校等から働きかけをすることにより、保護者の協力を得て対象者全員の受検を実現する。また、学校医等と連携し、健康診断の結果を児童生徒等の健康管理や保健教育に活用し、児童生徒等の心身ともに健康な生活の実現を目指す。										

事業名	学校保健充実事業（取組 2-1）																								
事業の目的	助産師による「命の大切さ」出前授業や専門家による性教育講演会、薬物乱用防止講演会、「エイズデーin たかさき」への参加を実施し、豊かな人間性をはぐくみ、生涯を通じて健康な生活を営む児童生徒の育成を図る。																								
実施状況	<p>豊かな心と健康な体づくりの一環として、健康教育の今日的課題に対応するため、専門家の講演や体験活動により、正しい知識を身に付け、自己の日常の生活に生かせるよう、学校において保健計画に位置づけられた継続的な実施を目指している。助産師会、ボランティア団体、学校医等の協力により、毎年多くの学校で実施できている。</p> <p>◆助産師による授業・性教育講演会実施校数</p> <table border="1" data-bbox="363 656 1114 846"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度</td> <td>50校</td> <td>53校</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>55校</td> <td>43校</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>55校</td> <td>49校</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆薬物乱用防止講演会実施校数</p> <table border="1" data-bbox="363 943 1114 1133"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度</td> <td>65校</td> <td>55校</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>65校</td> <td>41校</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>65校</td> <td>65校</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	令和元年度	50校	53校	令和2年度	55校	43校	令和3年度	55校	49校	年度	目標	実績	令和元年度	65校	55校	令和2年度	65校	41校	令和3年度	65校	65校
年度	目標	実績																							
令和元年度	50校	53校																							
令和2年度	55校	43校																							
令和3年度	55校	49校																							
年度	目標	実績																							
令和元年度	65校	55校																							
令和2年度	65校	41校																							
令和3年度	65校	65校																							
評価検証	<p>実施を希望する学校が増加している講師派遣事業については、予算維持とともに、実績の拡大に努めている。</p> <p>助産師でつくる『とらうべの会』による「命の大切さ」出前授業については、毎年継続して実施希望の学校が多いため、とらうべの会の先生方と日程を調整し、毎年多くの学校で実施できている。</p> <p>令和3年度については、2年度に引き続き、一堂に会する講演会は中止にする学校も多かったが、養護教諭や学校職員による授業や、DVDを活用した授業など、各校で工夫して実施した。</p>																								
今後の方針	<p>性教育、薬物乱用防止教育は、今日的かつ緊急的な課題であるため、受講学校数を増加できるよう多面的に働きかけていく。特に薬物乱用等の低年齢化に伴い、正しい知識と適切な判断ができるよう、小学校の薬物乱用防止教室の拡充を図り、保健所やライオンズクラブ等の関係機関と連携し、学校への支援を行いたい。</p> <p>また、予算等の関係から、隔年で実施する学校も多いが、より大きな成果を得られるように継続的な実施を働きかけていく。</p>																								


事業名	部活動充実事業（取組 2-2）																																				
事業の目的	中学校に部活動指導員や外部指導者を配置し、部活動の充実及び円滑な運営を図るとともに、部活動指導を行う教員の支援を行う。																																				
実施状況	<p>高崎市内の各中学校 25 校に部活動指導員を配置することや各中学校のニーズに応じた外部指導者の派遣により、部活動の質的向上や教職員の負担軽減を図るとともに、「高崎市の部活動の運営について」の徹底を図り、各中学校の実情に合わせた望ましい部活動の推進に努めた。</p> <p>◆部活動指導員配置人数</p> <table border="1" data-bbox="365 575 1083 763"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度</td> <td>75 人</td> <td>59 人</td> </tr> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>75 人</td> <td>60 人</td> </tr> <tr> <td>令和 3 年度</td> <td>75 人</td> <td>58 人</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆運動部への外部指導協力者数</p> <table border="1" data-bbox="365 853 1083 1041"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度</td> <td>65 人</td> <td>45 人</td> </tr> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>65 人</td> <td>41 人</td> </tr> <tr> <td>令和 3 年度</td> <td>52 人</td> <td>43 人</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆教職員の負担軽減につながったと答えた学校の割合</p> <table border="1" data-bbox="365 1131 1083 1319"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度</td> <td>100%</td> <td>88%</td> </tr> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>100%</td> <td>96%</td> </tr> <tr> <td>令和 3 年度</td> <td>100%</td> <td>96%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	令和元年度	75 人	59 人	令和 2 年度	75 人	60 人	令和 3 年度	75 人	58 人	年度	目標	実績	令和元年度	65 人	45 人	令和 2 年度	65 人	41 人	令和 3 年度	52 人	43 人	年度	目標	実績	令和元年度	100%	88%	令和 2 年度	100%	96%	令和 3 年度	100%	96%
年度	目標	実績																																			
令和元年度	75 人	59 人																																			
令和 2 年度	75 人	60 人																																			
令和 3 年度	75 人	58 人																																			
年度	目標	実績																																			
令和元年度	65 人	45 人																																			
令和 2 年度	65 人	41 人																																			
令和 3 年度	52 人	43 人																																			
年度	目標	実績																																			
令和元年度	100%	88%																																			
令和 2 年度	100%	96%																																			
令和 3 年度	100%	96%																																			
評価検証	部活動指導員の配置や運動部活動における外部指導者派遣により、教職員の部活動に係る心理的な負担や勤務時間の軽減を図ることができた。また、各種目の専門性を生かした指導が行われたことにより、更なる技能の向上やけがの防止に努めることができた。																																				
今後の方針	部活動を取り巻く現状と改革において、教職員の働き方改革における負担軽減が着実に推進している中で、練習する場所の確保（使用料）、指導者への謝礼、保護者への経済的負担等課題はあるが、部活動に取り組む生徒が取り残されないことがないよう、生徒目線の取組の改革として意識していきたい。																																				

事業名	学校体育充実事業（取組 2-2）																					
事業の目的	生涯を通して運動に親しむ心を養うとともに、各種競技大会の開催や新体力テストの実施、中体連等への支援を行い、児童生徒の体力の向上に努める。																					
実施状況	<p>生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成するために、各種運動の基本的な動きや技能をタブレットの使用により視覚的に捉えることで明確にし、自己の課題を見つけ、その解決に向け主体的に運動に親しむことができる授業づくりを行った。また、自らの体力に関心を持ち、進んで体力向上に取り組む児童生徒の育成に努めた。</p> <p>小学生を対象に行った体操演技講習会を通して、跳び箱、マット、鉄棒といった器械運動の楽しさや喜びを味わい、進んで運動に取り組む児童の育成に努めた。</p> <p>中体連各大会における運営への協力や、群馬県大会および関東・全国大会における選手の派遣に向けた支援に努めた。</p> <p>◆新体力テストの実施者数（小学5・6年生及び中学1～3年生）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度</td> <td>16,104人【実施率99%】</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>5,673人【実施率35%】</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>15,185人【実施率87%】</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆全国体力・運動能力、運動習慣等調査において「運動が好きである」「どちらかというと思う」と回答した児童の割合（小学5年生）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度</td> <td>93%</td> <td>90.9%</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>93%</td> <td>全国調査中止</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>93%</td> <td>92.2%</td> </tr> </tbody> </table>		年度	実績	令和元年度	16,104人【実施率99%】	令和2年度	5,673人【実施率35%】	令和3年度	15,185人【実施率87%】	年度	目標	実績	令和元年度	93%	90.9%	令和2年度	93%	全国調査中止	令和3年度	93%	92.2%
年度	実績																					
令和元年度	16,104人【実施率99%】																					
令和2年度	5,673人【実施率35%】																					
令和3年度	15,185人【実施率87%】																					
年度	目標	実績																				
令和元年度	93%	90.9%																				
令和2年度	93%	全国調査中止																				
令和3年度	93%	92.2%																				
評価検証	<p>体育の授業づくりでは、その種目の運動で得られる楽しさや喜びを得られるよう工夫した授業が行われている。児童生徒は、タブレットの使用により自らの動きを視覚的に捉え自己の課題を明確にすることで、課題解決に必要な基本的技能や知識を身に付け、身に付けた力をもとに自己の課題に主体的に取り組む姿が見られた。</p> <p>小学生の体操演技講習会では、体育の授業において取り組む身近な種目に絞って開催したことにより、基本的な技能のポイントを確認することができ、器械運動に親しむ児童の育成を図ることができた。</p> <p>中体連の大会運営や選手の派遣等については、各学校や中体連のニーズに対応した支援を行うことができた。</p>																					
今後の方針	<p>全児童生徒が生涯にわたってスポーツに親しむことができるよう、資料提供やタブレット等、ICTを活用した授業展開を充実させることで、更なる体育の授業改善を図る。</p> <p>また、新体力テストによる学校課題を明確にし、全校体制による計画的・組織的な取組を推進するよう努める。</p>																					

事業名	交通教室事業（取組 2-3）																																										
事業の目的	交通法規や自転車実習による交通教室を開催し、自分の命は自分で守る交通安全教育を推進する。																																										
実施状況	<p>小学3年生を対象に和田橋交通公園において「交通安全教室」を実施した。「交通事故ゼロ」を目指し、自転車の乗り方や交通ルールを中心に学習している。</p> <p>また、夏休みを利用して、自転車に乗れない小学1年生を対象に「親子自転車教室」を実施した。</p> <p>◆自転車事故発生率/交通事故総数(小学生)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度</td> <td>30% / 45件</td> <td>41% / 34件</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>30% / 45件</td> <td>41% / 44件</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>30% / 45件</td> <td>30% / 36件</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆交通安全教室小学3年生受講者数(参加率)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度</td> <td>3,097人</td> <td>3,078人(99.4%)</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>3,037人</td> <td>1,745人(57.5%)</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>3,064人</td> <td>3,008人(98.2%)</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆交通安全教室により交通安全に対する意識が高まったと答えた学校の割合</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和3年度</td> <td>95%</td> <td>95%</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆親子自転車教室受講者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度</td> <td>40組</td> <td>35組</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>40組</td> <td>26組</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>40組</td> <td>53組</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	令和元年度	30% / 45件	41% / 34件	令和2年度	30% / 45件	41% / 44件	令和3年度	30% / 45件	30% / 36件	年度	目標	実績	令和元年度	3,097人	3,078人(99.4%)	令和2年度	3,037人	1,745人(57.5%)	令和3年度	3,064人	3,008人(98.2%)	年度	目標	実績	令和3年度	95%	95%	年度	目標	実績	令和元年度	40組	35組	令和2年度	40組	26組	令和3年度	40組	53組
年度	目標	実績																																									
令和元年度	30% / 45件	41% / 34件																																									
令和2年度	30% / 45件	41% / 44件																																									
令和3年度	30% / 45件	30% / 36件																																									
年度	目標	実績																																									
令和元年度	3,097人	3,078人(99.4%)																																									
令和2年度	3,037人	1,745人(57.5%)																																									
令和3年度	3,064人	3,008人(98.2%)																																									
年度	目標	実績																																									
令和3年度	95%	95%																																									
年度	目標	実績																																									
令和元年度	40組	35組																																									
令和2年度	40組	26組																																									
令和3年度	40組	53組																																									
評価検証	<p>小学3年生の交通安全教室では、和田橋交通公園内にて交通ルールの学習や自転車を正しく乗るための知識、技能の習得に向けた実技指導の充実に努めた。</p> <p>また、親子自転車教室では、自転車に乗れるよう指導するだけでなく、交通ルールやマナーなどの交通安全指導も行った。</p> <p>令和3年度は、交通安全教室、親子自転車教室の受講者数は増えたこと、指標の「交通安全に対する意識が高まったこと」も事故発生率、事故数が減少に繋がったと考えることができる。</p>																																										
今後の方針	<p>小学生の自転車事故の主な原因は、一時停止不履行や前方不注意である。自分の命は自分自身で守ることや各地域の実情に応じた実効性のある交通安全教育が実施できるよう、各校への情報提供や支援に努めていく。また、群馬県交通安全条例の改正に伴い、自転車保険の義務化やヘルメット着用の努力義務化について周知を行い、家庭と連携し推進していく。</p>																																										

事業名	給食充実事業（取組 2-4）																								
事業の目的	学校給食において、地場農産物の積極的な活用や郷土料理の導入、栄養教諭・栄養士による食指導を実施することにより、児童生徒の健やかな成長と望ましい食習慣を形成していく。																								
実施状況	<p>新鮮で安全な食材の提供が可能となるだけでなく、地元の農産物生産者への支援、児童生徒の本市の農産物・農業への関心を高めることにも繋がることから、学校給食に地場農産物を積極的に使用している。また、児童生徒が食の重要性を知り、食についての興味・関心が高められるよう、栄養教諭・栄養士が給食時の教室訪問、給食放送、一口メモ等を活用し、献立や食材などに関する説明や食指導を行っている。</p> <p>◆給食における地場農産物使用率</p> <table border="1" data-bbox="371 685 1008 871"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度</td> <td>50%</td> <td>47.4%</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>50%</td> <td>38.8%</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>50%</td> <td>39.2%</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆食に関する指導により児童生徒の興味・関心が高められたと回答した栄養教諭・栄養士の割合</p> <table border="1" data-bbox="371 1008 1008 1193"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度</td> <td>100%</td> <td>73.3%</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>100%</td> <td>62%</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>100%</td> <td>68%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	令和元年度	50%	47.4%	令和2年度	50%	38.8%	令和3年度	50%	39.2%	年度	目標	実績	令和元年度	100%	73.3%	令和2年度	100%	62%	令和3年度	100%	68%
年度	目標	実績																							
令和元年度	50%	47.4%																							
令和2年度	50%	38.8%																							
令和3年度	50%	39.2%																							
年度	目標	実績																							
令和元年度	100%	73.3%																							
令和2年度	100%	62%																							
令和3年度	100%	68%																							
評価検証	<p>給食における地場農産物使用率は、農産物の生育の遅れや、出荷量の減少等により低下したが、引き続き目標とする50%に到達するよう努めていきたい。</p> <p>栄養教諭・栄養士の食に関する指導は、献立を通して、伝統的な食文化や行事食、食品の産地や特徴を計画的に指導することで、児童・生徒が地元の農産物や生産者に関心を持ち、残さず食べようとする気持ちが高まった。</p>																								
今後の方針	<p>地場農産物の使用率は、気候の影響による農作物の生育・流通状況等、外的な要因の影響を受けることもあるが、生産者や関係機関と連携を図り、生育状況、生産量等の情報収集を行い、より多くの地場農産物が使用できるよう取組を進めていく。</p> <p>栄養教諭・栄養士の食に関する指導は、教室訪問と併せて、給食放送、一口メモ、掲示資料、給食だより等を有効活用できるよう各学校への働きかけを行う。</p>																								

事業名	給食運営事業（取組 2-4）															
事業の目的	安全・安心な給食を提供するため、調理器具等の更新を実施するとともに、食育の視点から給食残渣の削減に取り組む。															
実施状況	<p>調理器具等の状況を確認し、必要性の高いものから優先的に更新を行った。 各学校園における残渣から作られた堆肥量をもとに、年間の残渣を推定して一人一日分の残渣を算出した。</p> <p>◆児童生徒一日あたりの給食残渣（令和3年度）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>幼稚園</td> <td>59 g</td> <td>50 g</td> </tr> <tr> <td>小学校</td> <td>38 g</td> <td>36 g</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>50 g</td> <td>46 g</td> </tr> <tr> <td>特別支援学校</td> <td>40 g</td> <td>40 g</td> </tr> </tbody> </table>	対象	目標	実績	幼稚園	59 g	50 g	小学校	38 g	36 g	中学校	50 g	46 g	特別支援学校	40 g	40 g
対象	目標	実績														
幼稚園	59 g	50 g														
小学校	38 g	36 g														
中学校	50 g	46 g														
特別支援学校	40 g	40 g														
評価検証	幼稚園、小学校及び中学校の残渣は、昨年度に引き続き目標値より少なかった。特別支援学校では、昨年は目標値より多かったが今回は目標値を達成できた。実績については、献立の内容により残渣の量も変わってくる。															
今後の方針	安全・安心な給食を提供するために、引き続き、古い調理器具等の更新を行っていく。また、食育の面からも、給食残渣を更に削減できるよう努めていく。															

事業名	小学生自然体験活動事業（取組 2-5）									
事業の目的	<p>榛名湖畔の素晴らしい自然環境を活用し、登山や野外炊飯などの自然体験活動を実施し、小学生の生きる力、豊かな心を育成する。</p>									
実施状況	<p>榛名湖畔にある「榛名林間学校榛名湖荘」での自然体験学習を市内全小学校 58校が実施した。コロナ禍での実施となったことから宿泊での実施を見合わせ、日帰りでの実施とした。実施にあたっては活動内容や活動場所に留意し、万全な感染症予防対策をとった。</p> <p>榛名湖畔を一周する「榛名湖ウオーク」では、季節ごとに移り変わる景色を見たり湖水に触れたりして榛名の自然を感じる活動ができた。また、所員が榛名湖畔の植物や生き物、地形、山々などの紹介をすることで子どもたちの興味関心を高めることができた。一昨年まで行っていた関東ふれあいの道を歩く「登山」も学校の実情に合わせて選べるようにしたことで、より主体的な活動を促すことができた。</p> <p>施設内では、榛名湖畔の木々を加工してオリジナルスプーンを制作し、林間学校の思い出のものとした。また感染症予防対策として消毒の徹底、活動場所の分散、制作方法の工夫など万全の体制で活動を行った。</p> <p>◆林間学校参加児童数</p> <table border="1" data-bbox="370 981 911 1122"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>校数</th> <th>児童数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>55 校</td> <td>2,988 人</td> </tr> <tr> <td>令和 3 年度</td> <td>58 校</td> <td>3,128 人</td> </tr> </tbody> </table>  <p style="text-align: center;">榛名湖ウオーク</p>	年度	校数	児童数	令和 2 年度	55 校	2,988 人	令和 3 年度	58 校	3,128 人
年度	校数	児童数								
令和 2 年度	55 校	2,988 人								
令和 3 年度	58 校	3,128 人								
評価検証	<p>本事業では、高崎市内の 58 小学校の 5 年生が、榛名湖畔の豊かな自然に触れたり仲間と協働したりすることで、子どもたちに生きる力と豊かな心を育むことができた。雨天時においては、榛名湖ウオークを半周にしたり木製名札制作を行ったりして悪天候でも有意義な活動ができるように計画した。感染症対策として、大規模校は二日間に分散して入校したり、複数校での入校を減らしたりした。</p>									
今後の方針	<p>榛名湖周辺の自然を生かした体験プログラムの充実を図り、子どもの実態に合わせた活動を行い、心身ともに健康でたくましい児童の育成ができる事業としていく。特にコロナ禍で日帰り実施をしてきた中で、宿泊することで得られる集団活動における自主性や協働、規律などを育む活動の意義を踏まえ、コロナ禍におけるの野外・宿泊体験活動を模索していく。</p>									

事業名	「健康教育」啓発事業（取組 2-1・2-2・2-3・2-4）
事業の目的	<p>「21世紀を担う元気なたかさきっ子」を育てるため、本市における健康教育（学校保健・学校体育・学校給食）の取組を紹介する健康教育フェアを開催し、学校園における実践の様子について、パネル展示等を通して広報することにより、学校・家庭・地域の連携の必要性を市民とともに考えていく。</p>
実施状況	<p>「健康教育フェア」は、健康教育に関する学校の実践や、学校給食、学校医・学校歯科医・学校薬剤師による活動のパネル展示等を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催を中止した。</p> <p>同時に開催している「エイズデー i n たかさき」については、縮小開催とした。エイズパネルの展示は、旧市内の学校は各校で展示し、支所地域は各支所での展示を行った。</p> <div data-bbox="355 734 1426 1055"> </div> <p style="text-align: center;">「エイズデー i n たかさき」 パネル展示の様子</p>
評価検証	<p>「健康教育フェア」と、同時開催している「エイズデー i n たかさき」のエイズパネル街角美術館、街頭キャンペーンは中止となったが、エイズデーの取組は広報紙「AIDS」の作成のほか、各校でレッドリボンやエイズパネルを作成し校内での啓発活動を行うことで、縮小してではあったが工夫して実施することができた。</p>
今後の方針	<p>健康教育は、継続的な取組が大切であることから、幼稚園から高等学校まで幅広く働きかけていく。今後も市庁舎1階ロビーなど、多くの市民が訪れやすい会場で開催し、パネル等の展示物の充実を図るとともに、多くの市民に来場してもらえるよう、広報による周知方法や催し物の開催方法を工夫していく。</p>

点検・評価シート


施策の視点	3 安全で多機能な教育環境づくりの推進	担当課
		教育総務課 健康教育課 高崎経済大学 附属高等学校
取組	3-1 安全・安心な学校づくり 3-2 多様で弾力的な活動を可能にする学校づくり 3-3 地域性を発揮させた学校づくり 3-4 環境にやさしい学校づくり	


事業名	学校施設改修事業（小学校、中学校、特別支援学校、幼稚園） （取組 3-1・3-2・3-3・3-4）
事業の目的	各学校園における改修等の要望箇所及び施設の点検結果を踏まえ、適切な改修工事等を実施することで、安全で快適な教育環境の維持管理を図る。
実施状況	「工事要望調査」等により、施設の状況や、危険及び不具合を感じる箇所を把握した上で、各所の補修・改修工事やトイレ洋式化等の工事を実施した。トイレ洋式化工事の進捗状況は、令和3年度末時点で約80%となっている。
評価検証	施設の老朽化により各学校園からの要望も多くなってきているが、予算の範囲内で危険性及び緊急性の高いものから優先して改修を行った。また、外壁改修工事や給水管更新工事、天井改修工事等を行い、学校施設の安全性の確保に努めるとともに、トイレ洋式化等の工事により学校での生活環境向上に努めた。
今後の方針	各学校園からの要望や施設の点検結果を踏まえ、優先度の高いものから改修を行っていく。

事業名	学校施設整備事業（高等学校）（取組 3-1）
事業の目的	安全で快適な学習環境と、生徒が安心して学校教育活動に取り組める環境を創出するため、学校施設の計画的な整備や適切な維持管理に努め、高等学校教育の充実を目指す。
実施状況	施設の老朽化により補修箇所が年々増加しているため、危険な状態、又は学校運営上、重大な支障が生じる箇所から優先的に補修を行った。
評価検証	予算の範囲内で、危険度及び必要性の高いものから優先して改修した。
今後の方針	学校施設のより一層の適切な維持管理に努めるとともに、必要な修繕工事等を優先度の高いものから実施していく。

事業名	学校体育施設開放事業（取組 3-2）												
事業の目的	生涯スポーツの普及と推進を図るため、各種団体のスポーツやレクリエーション活動に対し、小中学校施設等の体育施設の積極的な開放を行う。												
実施状況	<p>学校体育施設開放については、各学校の校庭や体育館等の体育施設を活用して実施している。令和3年度は、緊急事態宣言下では施設開放を一旦中止し、まん延防止等重点措置期間においては時間を短縮しての施設開放とした。施設開放に当たっては、利用者へ利用前の検温や共有部分の消毒などを依頼し、感染症対策の徹底に努めた。</p> <p>◆学校体育施設利用者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度</td> <td>610,000人</td> <td>640,386人</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>670,000人</td> <td>456,771人</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>650,000人</td> <td>473,264人</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	令和元年度	610,000人	640,386人	令和2年度	670,000人	456,771人	令和3年度	650,000人	473,264人
年度	目標	実績											
令和元年度	610,000人	640,386人											
令和2年度	670,000人	456,771人											
令和3年度	650,000人	473,264人											
評価検証	<p>まん延防止等重点措置期間においては時間短縮ではあったが、施設を開放することができた。コロナ禍の施設開放ではあったが、感染症対策を徹底しながら、多くの市民が学校体育施設を利用して、生涯スポーツの推進を図ることができた。また、コロナ禍で多くのスポーツイベントや大会が中止となる中、身近なスポーツ活動に親しむ場として有効活用を図ることができた。健康及び体力の保持増進や地域におけるスポーツを通じた交流の場として、登録団体数は毎年増加している。</p>												
今後の方針	<p>学校体育施設が、地域の生涯スポーツ活動の場となるよう、更なる普及・推進に向け、引き続き制度の周知活動に力を入れていく。また、利用者が安全にスポーツに親しむことができるよう、感染症対策を行うとともに、屋外照明の修繕や使用する器具の安全管理について整備を進めていく。</p>												

施策の視点	4 地域力を育む社会教育の充実	担当課
		社会教育課 中央公民館
取組	4-1-1 地域の教育力を活かした事業の推進 4-1-2 学社連携・融合による生涯学習の推進 4-1-3 人権文化の創造 4-1-4 家庭教育の振興 4-1-5 学習支援体制の整備 4-1-6 平和な社会生活の創造 4-1-7 地域の課題に対応した公民館事業の推進 4-1-8 社会教育施設の学習環境の整備	

事業名	地区推進体制整備事業（取組4-1-1）													
事業の目的	学習者と地域をつなぐコーディネーターとしての役割を担っている生涯学習推進員の活動を支援し、地域住民の生涯学習推進の充実を図る。													
実施状況	<p>◆生涯学習推進研究大会</p> <p>令和3年度は、第1ブロック城東小学校区による「コロナ禍での活動」、第6ブロック倉賀野小学校区による「伝統・歴史遺産を学び、未来に繋ぐ、生涯学習活動」、大類公民館主事による「地域人材を生かした公民館運営」のそれぞれの事例研究発表を行った。</p> <p>◆生涯学習推進員が関わった地域活動への参加者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度</td> <td>17,046人</td> <td>16,069人</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>16,541人</td> <td>4,476人</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>16,069人</td> <td>6,799人</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	令和元年度	17,046人	16,069人	令和2年度	16,541人	4,476人	令和3年度	16,069人	6,799人	 <p>生涯学習推進研究大会</p>
年度	目標	実績												
令和元年度	17,046人	16,069人												
令和2年度	16,541人	4,476人												
令和3年度	16,069人	6,799人												
評価検証	生涯学習推進研究大会は、生涯学習フェスティバルと同時開催することにより、多くの市民に生涯学習活動を始めのきっかけを提供している。推進員が関わった地域活動は、引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を受けているものの、事業数が増加したことに伴い前年度より参加者数が増加している。推進員の活動が更に地域住民に理解されることが大切である。													
今後の方針	地域活動に生涯学習推進員が積極的にに関わり、学校や公民館等の社会教育施設との連携を深め、参加者を増やせるよう生涯学習の活性化に努める。生涯学習推進員の役割や地域の特性を生かしながら、意欲的に活動に取り組んでいる状況を明確にし、更なる支援を図る。													

事業名	公民館運営事業（取組 4-1-2・4-1-7）																									
事業の目的	地域の特色と住民の学習要求に対応した事業の展開を通して、「心豊かな活力ある人づくり・地域づくり」を行う。																									
実施状況	<p>公民館主催事業については、次の4つを柱に展開している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ライフアップ推進事業－高齢者、健康、家庭教育、環境教育、防災・防犯、人権等の社会的な課題に関する学習機会を提供する事業 2 キャリアデザイン支援事業－生きがいのある人生設計を考え、個々の能力や個性の開発に挑戦できる学習機会を提供する事業 3 地域づくり支援・ボランティア養成事業－地域の伝統や文化をより発展させるための支援や活動ボランティアを養成する事業 4 図書ボランティア活動支援事業－心豊かな子どもたちの成長を願い、公民館図書活動を充実させるための事業 <p>◆公民館利用者数</p> <table border="1" data-bbox="384 786 976 981"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度</td> <td>890,000人</td> <td>782,419人</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>860,000人</td> <td>401,648人</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>600,000人</td> <td>434,435人</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆公民館主催事業への参加者数</p> <table border="1" data-bbox="384 1039 976 1234"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度</td> <td>130,000人</td> <td>103,267人</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>120,000人</td> <td>31,272人</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>60,000人</td> <td>35,345人</td> </tr> </tbody> </table>  <p>「うたと音楽のちから」の様子 (箕郷、久留馬公民館主催事業)</p>		年度	目標	実績	令和元年度	890,000人	782,419人	令和2年度	860,000人	401,648人	令和3年度	600,000人	434,435人	年度	目標	実績	令和元年度	130,000人	103,267人	令和2年度	120,000人	31,272人	令和3年度	60,000人	35,345人
年度	目標	実績																								
令和元年度	890,000人	782,419人																								
令和2年度	860,000人	401,648人																								
令和3年度	600,000人	434,435人																								
年度	目標	実績																								
令和元年度	130,000人	103,267人																								
令和2年度	120,000人	31,272人																								
令和3年度	60,000人	35,345人																								
評価検証	<p>新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、住民が集い活動する地域の拠点としての役割を果たしたが、サークル活動の自粛や利用人数の制限、地域の諸団体との共催事業の中止等のため、公民館利用者数、公民館主催事業への参加者数は、前年度からやや回復したものの、引き続きコロナ禍前と比較し大きく減少している。</p> <p>各公民館では「公民館だより」の町内回覧やホームページ「まなびネットたかさき」などにより、市民に公民館事業への参加を呼びかけ、必要とする人に情報が届くように努めるとともに、地域人材、団体育成・地域づくりの支援を行っている。</p> <p>地域の特色を生かした新たな事業として、地区の作品展示に併せて開催し地元の史跡への理解を深める新高尾公民館「日高遺跡を学ぼう」、街に出てSNS等での上手な写真の撮り方を学ぶ東公民館「新年のぶらり街なか撮影会」を始めとした事業を展開した。</p> <p>また、講座で利用するためのポケットWi-Fiを用意し、複数の公民館でインターネットを活用した事業を実施した。会場と動画配信の二つの方法で参加できる中央公民館「高崎らしさの始まりを探る」「古文書入門講座」、二つの公民館と榛名高校をオンラインで繋ぎ、共に歌ったり体を動かしたりして交流を図る箕郷、久留馬公民館「うたと音楽のちから」などを行い、コロナ禍においても地域の学びを止めないよう学習機会の提供に取り組んだ。</p>																									

今後の方針	地域住民の生活を支える社会教育活動の拠点として生涯学習の推進に努めるとともに、公民館職員の資質の向上を図りながら、心豊かな活力ある人づくり・地域づくりに資する事業を推進していく。
-------	---

事業名	生涯学習推進事業（取組 4-1-1・4-1-5）																								
事業の目的	市民一人ひとりの主体的な学習活動が地域づくりに生かされ、地域力を育む生涯学習社会が創造されるよう本事業の推進を図るとともに市民の学習活動を支援する。																								
実施状況	<p>◆生涯学習推進事業参加者・受講者数（令和3年度）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生涯学習推進研究事業</td> <td>250人</td> <td>209人</td> </tr> <tr> <td>生涯学習フェスティバル</td> <td>400人</td> <td>350人</td> </tr> <tr> <td>出前講座</td> <td>2,000人</td> <td>2,309人</td> </tr> <tr> <td>まなびネットたかさきの閲覧回数</td> <td>210,000回</td> <td>231,022回</td> </tr> <tr> <td>地域人材登録活用事業</td> <td>2,500人</td> <td>2,630人</td> </tr> <tr> <td>高崎学検定事業</td> <td>100人</td> <td>82人</td> </tr> <tr> <td>高崎学検定新規受検者の割合</td> <td>30%</td> <td>22.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆たかさき子ども活動デーの推進</p> <p>学習活動の一環として土曜日を有意義に過ごせるよう、市内をはじめ県内各施設の子ども向け事業の情報を掲載した「たかさき子ども活動デー・インフォメーション」を140,000部発行した。</p>	事業名	目標	実績	生涯学習推進研究事業	250人	209人	生涯学習フェスティバル	400人	350人	出前講座	2,000人	2,309人	まなびネットたかさきの閲覧回数	210,000回	231,022回	地域人材登録活用事業	2,500人	2,630人	高崎学検定事業	100人	82人	高崎学検定新規受検者の割合	30%	22.0%
事業名	目標	実績																							
生涯学習推進研究事業	250人	209人																							
生涯学習フェスティバル	400人	350人																							
出前講座	2,000人	2,309人																							
まなびネットたかさきの閲覧回数	210,000回	231,022回																							
地域人材登録活用事業	2,500人	2,630人																							
高崎学検定事業	100人	82人																							
高崎学検定新規受検者の割合	30%	22.0%																							
評価検証	<p>「生涯学習フェスティバル」は、目標値には届かなかったが、入場者を会場の収容定員の50%以下に制限するなど感染症対策を講じて開催し、市民の学習支援に努めた。</p> <p>「生涯学習推進研究事業」の参加者数は、新型コロナウイルス感染拡大防止のための事業中止や活動自粛により前年度より減少したが、「出前講座」は講座の数を増やしたことなどにより、参加者数が前年度より増加した。また、市民の学習意欲の高まりなどから「まなびネットたかさき」の閲覧回数も前年度を上回る結果となった。</p> <p>「地域人材登録活用事業」は、利用自粛を経験した市民が再び利用を始めたことから、受講者数が増加した。また、新たな人材を発掘し講師登録したことにより、講師登録者数は前年度の実績を維持することができた。</p> <p>「高崎学検定事業」は、コロナ禍でも安心して受検できる環境を整え、各メディアによる周知活動を行ったことにより、受検者数（前年比△2人）、新規受検者割合（前年比△1.7%）とともに前年同程度の参加者数を確保することができた。</p>																								
今後の方針	インターネットを利用した生涯学習情報システム「まなびネットたかさき」の内容を更に充実・活用する。関係機関との調整を図るとともに連携を深め、積極的な学習支援や周知・啓発を行い市民サービスの向上に努める。各種事業においては、当分の間、会場での換気を徹底し、手指消毒や検温、座席間隔をあける、出入動線を分けるなどの状況をみながら感染症対策を講じて実施する。																								

事業名	人権文化創造事業（取組 4-1-3・4-1-6）																																																	
事業の目的	人権尊重都市宣言の具現化を目指し、基本的人権尊重の精神が本市の隅々まで浸透し、「思いやりの心がゆきわたるまちたかさき」の創造を図るため、人の立場を尊重しつつ、人を思いやる心を持つことの大切さを啓発し、支え合って生活していけるよう、さまざまな人権課題に関する講座、懇談会等を開催する。																																																	
実施状況	<p>◆心豊かな地域づくりのための懇談会参加者数</p> <table border="1" data-bbox="368 434 908 629"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度</td> <td>2,200人</td> <td>1,987人</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>2,200人</td> <td>335人</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>800人</td> <td>709人</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆心豊かな地域づくりのための懇談会 「参考になった」と答えた参加者の割合</p> <table border="1" data-bbox="368 725 908 920"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度</td> <td>95%</td> <td>94%</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>95%</td> <td>95%</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>95%</td> <td>96%</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆人権教育講座参加者数（公民館主催）</p> <table border="1" data-bbox="368 972 908 1167"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度</td> <td>1,500人</td> <td>1,411人</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>1,600人</td> <td>600人</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>800人</td> <td>688人</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆人権講演会参加者数</p> <table border="1" data-bbox="368 1218 908 1413"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度</td> <td>400人</td> <td>363人</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>380人</td> <td>148人</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>150人</td> <td>182人</td> </tr> </tbody> </table>		年度	目標	実績	令和元年度	2,200人	1,987人	令和2年度	2,200人	335人	令和3年度	800人	709人	年度	目標	実績	令和元年度	95%	94%	令和2年度	95%	95%	令和3年度	95%	96%	年度	目標	実績	令和元年度	1,500人	1,411人	令和2年度	1,600人	600人	令和3年度	800人	688人	年度	目標	実績	令和元年度	400人	363人	令和2年度	380人	148人	令和3年度	150人	182人
年度	目標	実績																																																
令和元年度	2,200人	1,987人																																																
令和2年度	2,200人	335人																																																
令和3年度	800人	709人																																																
年度	目標	実績																																																
令和元年度	95%	94%																																																
令和2年度	95%	95%																																																
令和3年度	95%	96%																																																
年度	目標	実績																																																
令和元年度	1,500人	1,411人																																																
令和2年度	1,600人	600人																																																
令和3年度	800人	688人																																																
年度	目標	実績																																																
令和元年度	400人	363人																																																
令和2年度	380人	148人																																																
令和3年度	150人	182人																																																
評価検証	<p>「心豊かな地域づくりのための懇談会」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため参加人数を制限したことと、中止にした公民館もあったことで目標値には届かなかった。事前に助言者を対象とした研修会を行い共通理解を図ったこと、また参加者がよりテーマに迫れるようにサブテーマに沿った内容で構成されているオムニバス形式のDVDを選定したこと、さらに感染状況による時間設定に対応できるように「傾聴」のワークシートを作成して短時間の講座を行うなど工夫したことで、「参考になった」と答えた参加者の割合は96%となり目標値を達成することができた。子育て世代への参加呼びかけは行いづらい状況であったが、アンケートからは世代間を超えて地域交流を求めるものが継続して見られた。各公民館で開催している「人権教育講座」は中止した会場もあったが、37館で実施された。女性や子ども、高齢者を対象とした講座が実施され、幅広い世代の学習の場とすることができた。「人権講演会」は、参加人数を制限するなど感染症対策を行い、参加者数は目標値に到達することができた。</p>																																																	



思いやりを持った社会を作るための市民研修会

今後の方針	<p>コロナの感染状況などを鑑みて、安全、安心を最大限考慮に入れながら、市内の各地区公民館との連携・協働を図り、人権課題に関する講座、懇談会等により幅広い世代の参加者が得られるよう周知を行う。講座の実施に際しては、今年度のように参加者がより身近に感じられるテーマの選定や、短時間でもテーマに迫れるような方法、懇談会の形態や時間の使い方など、さまざまな状況に対応できるような内容を考えていく。講座の企画にあたり、前年度のアンケート結果を考察し、市民の実態把握や地域の課題や実情を理解し、参加意義や充実感を感じられるよう心がけるとともに子育て世代への呼びかけを強めるなど、世代間交流を図る。</p>
-------	---

事業名	家庭教育支援事業（取組 4-1-4）																								
事業の目的	<p>家庭の教育力の向上を目指すとともに、子どもを取り巻く環境の変化に対応するために家庭教育に関する各種講座を開催する。また、子育て支援に携わる市民との協働を図り、子育て支援にかかわる情報の共有や発信、活動支援を行う。</p>																								
実施状況	<p>◆家庭教育関連講座参加者数</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度</td> <td>4,500人</td> <td>4,002人</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>4,400人</td> <td>3,462人</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>3,500人</td> <td>3,407人</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆参加者のうち「講座の内容に満足した」と答えた割合</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度</td> <td>99%</td> <td>98%</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>99%</td> <td>98%</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>99%</td> <td>98%</td> </tr> </tbody> </table> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  <p>幼児期子育て講座の様子</p> </div>	年度	目標	実績	令和元年度	4,500人	4,002人	令和2年度	4,400人	3,462人	令和3年度	3,500人	3,407人	年度	目標	実績	令和元年度	99%	98%	令和2年度	99%	98%	令和3年度	99%	98%
年度	目標	実績																							
令和元年度	4,500人	4,002人																							
令和2年度	4,400人	3,462人																							
令和3年度	3,500人	3,407人																							
年度	目標	実績																							
令和元年度	99%	98%																							
令和2年度	99%	98%																							
令和3年度	99%	98%																							
評価検証	<p>今年度も前年度のアンケート結果を基に、市民のニーズに合わせた参加体験型の講座を多く企画した。新型コロナウイルス感染症の影響で、講座の中止や参加者の制限などを行ったため、参加者数は目標値に届かなかったが、講座に対する「満足」の割合は継続して高い評価を得ることができた。</p>																								
今後の方針	<p>市民が子育てに抱く悩みや不安の解消に向け、引き続き市民のニーズに合った講座と参加者が満足感を得られる参加体験型の講座を展開していく。またコロナ禍によって引き起こされる子育てに関する不安や悩みの解消につながるような講座を開催していく。あわせて本市の家庭教育力を高めるために、家庭教育支援に関する情報を「まなびネットたかさき」や「子育て情報紙（すくいぐ）」などで継続して市民に提供していく。さらに、周知を図るため広報高崎に「すくいぐ」の配布場所や市のホームページから確認できることを掲載する。</p>																								

事業名	視聴覚教育事業（取組 4-1-5）												
事業の目的	市民が活用しやすい視聴覚教材・教具を取り揃え、市民の学習要求に応じた研修会、講座等を開催する。また、視聴覚に関する情報の共有や発信を行い、学校教育と社会教育が連携・融合しながら、更なる視聴覚教育の推進と市民の学習意欲向上を図る。												
実施状況	<p>◆視聴覚教育関連講座参加者数</p> <table border="1" data-bbox="363 465 911 562"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和 3 年度</td> <td>40 人</td> <td>58 人</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆参加者のうち「研修会等の内容に満足した」と答えた割合</p> <table border="1" data-bbox="363 658 911 754"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和 3 年度</td> <td>90%</td> <td>95%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	令和 3 年度	40 人	58 人	年度	目標	実績	令和 3 年度	90%	95%
年度	目標	実績											
令和 3 年度	40 人	58 人											
年度	目標	実績											
令和 3 年度	90%	95%											
評価検証	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、さまざまな感染防止対策をとり実施した事業が増えた。不特定多数を招く事業については中止になったが、参加者数の目標値を超えることができた。2年続けて中止の後に再開した事業では、目標より高い満足度が得られた。また、視聴覚ライブラリーにおいては、貸出しがスムーズに行えるよう、16ミリフィルム等の点検や廃棄・整理を行った。												
今後の方針	今年度も感染防止対策を講じたうえで、できる限り各事業を継続して開催していく。繰り返し学習ができるよう、再講習できる体制も整え、学びのニーズに応えられるよう計画していく。そのために、広報活動の充実を図ったり、「まなびネットたかさき」での掲載を充実させたりする。さらに今年度は、利用できる機器や教材の紹介などを網羅した利用目録を刷新し、関係する各課・担当との連携を図りながら啓発活動を行っていく。なお、映写機等の機材の定期点検や教材の新規購入など、利用者が活用しやすいライブラリーの環境づくりも継続して行っていく。												

事業名	公民館整備事業（取組 4-1-8）
事業の目的	本市の公民館は中央公民館のほか、44の地区公民館を設置し、地域力を高めるさまざまな生涯学習活動を推進している。快適な学習環境を提供するため、安全で利用しやすい公民館施設の整備を図る。
実施状況	市民の利用を促進するため、公民館施設の適切な維持補修を行った。 令和3年度は非常用自家発電装置交換など43件の修繕、老朽化対策による各種工事を15件実施した。
評価検証	老朽化対策としてトイレ洋式化や空調機械の更新等のほか、修繕（補修）工事を行ったことにより、快適で利用しやすい施設とすることができた。
今後の方針	公民館の整備は、施設の老朽化と耐震診断による結果を踏まえ、改修改築等の方針を定めていきたい。新たな公民館建設については、地域の特性、人口等の状況や既存公民館の維持補修の状況などから整備を検討していきたい。

事業名	社会教育施設改修事業（取組 4-1-8）
事業の目的	市民が快適な学習環境で学べるよう、社会教育施設の修繕・工事や維持管理を行う。老朽化等各館の状況を踏まえ、安全で利用しやすい社会教育施設の整備を図る。
実施状況	令和3年度は窓ガラス修繕や雨どい交換など、交流館8件の修繕、屋上防水工事や床面張り替え工事など、交流館5件の工事を行った。
評価検証	市内17か所ある交流館の修繕・工事は緊急性が高いものから重点的に取り組み、施設の機能が発揮できるよう、適切な維持管理・修繕を実施した。
今後の方針	陶芸体験施設牛伏窯や交流館の維持管理については、今後も計画的な補修などに努め、適切な管理を行っていく。

事業名	市民活動センター管理運営事業（取組 4-1-8）																								
事業の目的	市民活動センターは、市民の生涯学習活動の支援、男女共同参画社会の実現及び市民公益活動の促進を目的として設置された施設であり、これらの目的を達成するため、諸事業を実施するとともに市民活動の支援に努める。																								
実施状況	<p>◆市民活動センター利用者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度</td> <td>64,000 人</td> <td>48,019 人</td> </tr> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>59,000 人</td> <td>22,185 人</td> </tr> <tr> <td>令和 3 年度</td> <td>20,000 人</td> <td>28,554 人</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆市民活動センター団体登録数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度</td> <td>300 団体</td> <td>292 団体</td> </tr> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>300 団体</td> <td>282 団体</td> </tr> <tr> <td>令和 3 年度</td> <td>300 団体</td> <td>268 団体</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	令和元年度	64,000 人	48,019 人	令和 2 年度	59,000 人	22,185 人	令和 3 年度	20,000 人	28,554 人	年度	目標	実績	令和元年度	300 団体	292 団体	令和 2 年度	300 団体	282 団体	令和 3 年度	300 団体	268 団体
年度	目標	実績																							
令和元年度	64,000 人	48,019 人																							
令和 2 年度	59,000 人	22,185 人																							
令和 3 年度	20,000 人	28,554 人																							
年度	目標	実績																							
令和元年度	300 団体	292 団体																							
令和 2 年度	300 団体	282 団体																							
令和 3 年度	300 団体	268 団体																							
評価検証	管理運営において、コロナ禍でも安心して利用できる施設を心がけたことや、市民の学習活動が高まっていることなどから、利用者数が増加に転じた。また、団体登録数についても微かな減少にとどまっている。																								
今後の方針	市民活動センターは、生涯学習活動の支援、男女共同参画社会の実現及び市民公益活動の促進のための拠点施設として、事業を更に強化していく必要がある。引き続き、利用者数、団体登録数の確保及び円滑な事業運営のための工夫を進める。																								

施策の視点	4 地域力を育む社会教育の充実	担当課
		中央図書館
取組	4-2-1 図書館資料の充実 4-2-2 図書館ネットワークの活用 4-2-3 市民生活に役立つ図書館づくり 4-2-4 子どもの読書活動の推進 4-2-5 関係諸機関との連携	

事業名	図書館管理運営事業（取組 4-2-1・4-2-2）																											
事業の目的	最新の社会動向をはじめ、市民の幅広い学習ニーズに対応できるよう、所蔵資料やサービスの一層の充実を図り、より利用しやすい図書館を目指す。 また、市立図書館6館及び地域の拠点となる公民館等との連携を強化し、更なる利便性の向上を図る。																											
実施状況	<p>◆個人貸出点数</p> <table border="1"> <tr> <td>令和3年度実績</td> </tr> <tr> <td>2,089,737点</td> </tr> </table> <p>◆図書館資料個人貸出点数 年度推移</p> <table border="1"> <caption>◆資料貸出点数 (点)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成29年度</td> <td>2,268,727</td> </tr> <tr> <td>平成30年度</td> <td>2,275,157</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>2,236,507</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>1,857,916</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>2,089,737</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆図書館資料貸出人数 年度推移</p> <table border="1"> <caption>◆資料貸出人数 (人)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成29年度</td> <td>548,407</td> </tr> <tr> <td>平成30年度</td> <td>562,188</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>550,426</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>450,133</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>507,568</td> </tr> </tbody> </table>		令和3年度実績	2,089,737点	年度	合計	平成29年度	2,268,727	平成30年度	2,275,157	令和元年度	2,236,507	令和2年度	1,857,916	令和3年度	2,089,737	年度	合計	平成29年度	548,407	平成30年度	562,188	令和元年度	550,426	令和2年度	450,133	令和3年度	507,568
令和3年度実績																												
2,089,737点																												
年度	合計																											
平成29年度	2,268,727																											
平成30年度	2,275,157																											
令和元年度	2,236,507																											
令和2年度	1,857,916																											
令和3年度	2,089,737																											
年度	合計																											
平成29年度	548,407																											
平成30年度	562,188																											
令和元年度	550,426																											
令和2年度	450,133																											
令和3年度	507,568																											

◆資料別蔵書点数

区 分		令和2年度 蔵書数(点)	令和3年度 蔵書数(点)
高崎市立中央図書館	一 般	500,237	508,681
	児 童	85,889	87,439
	視聴覚	80,692	75,662
公民館等	一 般	31,148	31,711
	児 童	30,159	30,545
	視聴覚	0	0
高崎駅サービスセンター	一 般	19,987	17,510
	児 童	1,418	1,337
箕郷図書館	一 般	31,088	30,749
	児 童	14,250	14,391
	視聴覚	3,868	3,825
群馬図書館	一 般	108,477	109,449
	児 童	36,746	37,064
	視聴覚	7,874	8,031
新町図書館	一 般	69,314	70,011
	児 童	25,642	26,105
	視聴覚	6,746	6,807
榛名図書館	一 般	44,190	45,213
	児 童	22,164	22,635
	視聴覚	3,449	3,207
山種記念吉井図書館	一 般	32,638	33,107
	児 童	24,576	25,137
	視聴覚	3,173	3,274
合 計		1,183,725	1,191,890

実施状況

評価検証

令和2年度から視覚障害者情報総合ネットワーク「サピエ」に加入し、活字を読むことが困難な14名の登録者が活用している。また、市立図書館6館及び地域の拠点となる公民館等との間の物流システムが円滑に運用されるなど、利便性の向上が図られている。

なお、個人貸出点数及び貸出人数が、前年度より増加に転じているのは、コロナ禍でも安心して来館できる環境づくりに努めた結果と考える。

今後の方針

多くの市民が読書への興味関心を高められるよう、企画展示や特集コーナーの設置、インターネットを活用した情報発信などを推進する。図書館がより有効に活用されるよう、図書館資料収集管理方針に基づき、適正な蔵書管理に努め、図書資料や視聴覚資料の充実を図る。また、引き続き各施設の間を物流システムで結び、利用者の利便性を図り、サービスの拡大に努める。

事業名	市民生活に寄り添う図書館づくり（取組 4-2-3）																
事業の目的	レファレンスサービスの更なる向上と提供体制の充実を図ることにより、市民が求める資料や情報を的確に案内・提供するとともに、学習や調査研究の円滑な推進を支援する。																
実施状況	<p>レファレンス事例を図書館ホームページ及び国立国会図書館が全国の図書館等と協同で構築しているレファレンス協同データベースに登録公開した。</p> <p>◆レファレンス協同データベース新規登録件数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度</td> <td>17 件</td> </tr> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>52 件</td> </tr> <tr> <td>令和 3 年度</td> <td>31 件</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆レファレンス協同データベース年間アクセス件数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度</td> <td>327,617 回</td> </tr> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>260,035 回</td> </tr> <tr> <td>令和 3 年度</td> <td>294,752 回</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績	令和元年度	17 件	令和 2 年度	52 件	令和 3 年度	31 件	年度	実績	令和元年度	327,617 回	令和 2 年度	260,035 回	令和 3 年度	294,752 回
年度	実績																
令和元年度	17 件																
令和 2 年度	52 件																
令和 3 年度	31 件																
年度	実績																
令和元年度	327,617 回																
令和 2 年度	260,035 回																
令和 3 年度	294,752 回																
評価検証	<p>レファレンス事例のデータベース化は、市民が求めるさまざまな資料を的確かつ短時間に提供することを可能としている。また、図書館ホームページで事例を公開することにより、市民の学習や調査研究に有用な情報源を提供するのみならず、群馬県立図書館が運営するデジタルライブラリーを活用し、高崎市の貴重な資料をデジタル画像として広く公開もしている。</p> <p>前年度よりアクセス件数が増加したのは、内容の更なる充実を図った結果と考える。</p>																
今後の方針	レファレンスサービスと情報発信を積極的に推進し、市民生活や地域の課題解決に有用な情報提供施設としての機能の強化に努める。																

事業名	子どもの読書活動の推進（取組 4-2-4）												
事業の目的	学校連携パックの提供や学校図書館指導員へのレファレンス対応など、各学校図書館との連携と協力を推進することにより、子どもたちが幅広い分野の本に多く触れることのできる機会を提供し、学習活動や読書活動の一層の充実を図る。												
実施状況	<p>◆学校連携相談対応貸出数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年度</td> <td>303件（43校）、6,394冊</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>355件（49校）、7,272冊</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆県立図書館学習支援セット貸出実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年度</td> <td>小学校20回、中学校3回</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>小学校15回、中学校0回</td> </tr> </tbody> </table> <p>上記のほか、「がっこう⇄たかさき としょかん通信」を6回発行した。 また、学校図書館指導員の研修に図書館職員を講師として派遣した。</p>	年度	実績	令和2年度	303件（43校）、6,394冊	令和3年度	355件（49校）、7,272冊	年度	実績	令和2年度	小学校20回、中学校3回	令和3年度	小学校15回、中学校0回
年度	実績												
令和2年度	303件（43校）、6,394冊												
令和3年度	355件（49校）、7,272冊												
年度	実績												
令和2年度	小学校20回、中学校3回												
令和3年度	小学校15回、中学校0回												
評価検証	<p>学校連携事業については、学校からの要望を踏まえ新たな学校連携パックを作成するなど内容の充実に努めた。</p> <p>令和3年度は学校連携を始めた平成25年度から、利用件数が一番多くなっている。学校と図書館の情報交換が円滑に行われ、「働く車」「昆虫の図鑑」「昔のくらし」といった、より授業に活用できるテーマを資料集めに反映できた結果と考えられる。</p>												
今後の方針	読書を通じて子どもたちの主体的な問題解決能力や豊かな感性を育むことができるよう、学校連携パックの内容の創意工夫を図るとともに、学校図書館との連携・協力を更に強化させ、子どもたちの充実した読書環境や学習環境の整備に努める。												

事業名	関係諸機関との連携事業（取組 4-2-5）						
事業の目的	関係部署と連携して企画展示や市内外の図書館との相互貸借の実施により、市民の学習や課題解決に資するさまざまな情報や資料を幅広く提供し、利便性とサービスの一層の向上を図る。						
実施状況	<p>関係部署と連携して中央図書館の展示コーナーにおいて、高崎学検定や認知症についてなど、年間 5 回の企画展示を実施した。</p> <p>また、市外の公共図書館や近隣の大学図書館との相互貸借を積極的に展開し、市民が必要とする資料を迅速に提供することに努めた。</p> <p>実物の展示や公開が困難な貴重な歴史的資料 10 点について、群馬県立図書館が運営するデジタルライブラリーで画像を公開した。</p> <p>◆相互貸借実績</p> <table border="1" data-bbox="368 696 903 846"> <thead> <tr> <th colspan="2">令和 3 年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>借受</td> <td>1,951 件</td> </tr> <tr> <td>貸出</td> <td>1,696 件</td> </tr> </tbody> </table>	令和 3 年度実績		借受	1,951 件	貸出	1,696 件
令和 3 年度実績							
借受	1,951 件						
貸出	1,696 件						
評価検証	<p>関係部署と連携して館内での企画展示を実施し、市民にさまざまな行政に関する情報を提供するとともに、市外図書館との相互貸借により、幅広い資料や情報を市民に提供することができた。</p> <p>また、群馬県立図書館が運営するデジタルライブラリーを活用し、当館が所蔵する貴重な歴史的資料をデジタル画像として広く公開することができた。</p>						
今後の方針	関係部署との連携によるさまざまな企画展示を継続するとともに、貴重な歴史的資料のデジタル化を推進して積極的な公開に努めるなど、更なるサービスの向上を図る。						


点検・評価シート

施策の視点	5 歴史や文化の薫り高い文化環境づくりの推進	担当課
		文化財保護課
取組	5-1 文化財保存活用地域計画の策定・推進 5-2 身近な文化遺産の活用と歴史学習の環境づくり 5-3 市民への文化財情報の提供 5-4 文化財に親しむための環境づくり 5-5 歴史的建造物の保存へ向けた環境整備 5-6 地域の文化財の掘り起こしと保護するための環境づくり 5-7 民俗資料の収集と展示 5-8 市民の積極的参加を促す資料館活動 5-9 市民に開かれた資料館の運営 5-10 市民の学習活動の支援	


事業名	文化財保存活用地域計画の策定・推進事業（取組 5-1）
事業の目的	市民共有の文化遺産の適切な保存、有効な活用方法や整備のあり方について文化財保存活用地域計画の策定を検討する。
実施状況	本市に存在する文化財を指定・未指定にかかわらず幅広く捉えて、文化財をその周辺環境を含めて総合的に保存・活用するための計画である文化財保存活用地域計画策定に向けた検討を進めた。
評価検証	文化財保存活用地域計画策定のための、情報収集及び資料整理作業を行った。
今後の方針	文化財保存活用地域計画の策定・推進を検討していく。

事業名	日高遺跡保存整備事業（取組 5-2）						
事業の目的	国指定史跡日高遺跡を永く保存し、市民共通の文化遺産としての活用を図るため、史跡公園として整備する。						
実施状況	<p>J R 上越線南側区域の整備工事を行い、側溝等を設置した。</p> <p>また、開園した J R 線北側区域では、復元した弥生時代の水田を活用し、地元で組織された「日高遺跡をともに楽しむ会」の会員で、稲作と未使用水田部に菜の花の育成を行った。</p> <p>開園部分については、業務委託により除草等の管理を行った。</p> <p>◆事業進捗率（令和 3 年度）</p> <table border="1" data-bbox="384 887 887 983"> <thead> <tr> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>通算実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1%</td> <td>1%</td> <td>52%</td> </tr> </tbody> </table>  <p>整備完成予想図</p>  <p>稲作体験（田植え）の様子</p>	目標	実績	通算実績	1%	1%	52%
目標	実績	通算実績					
1%	1%	52%					
評価検証	整備工事に着手して 1 3 年目となり、上越線南側区域の工事を実施した。また、復元した水田では、地元で組織された活用団体の会員で稲作などを実施し、公園の利用のあり方について市民の関心が高まった。						
今後の方針	J R 上越線南側区域の整備工事を推進する。						

事業名	箕輪城跡保存整備事業（取組 5-2）						
事業の目的	国指定史跡箕輪城跡を永く保存し、市民共通の文化遺産としての活用を図るため、史跡公園として整備する。						
実施状況	<p>史跡整備基本設計に基づき、本丸・蔵屋敷間木橋整備工事を実施し、木橋が完成した。</p> <p>◆事業進捗率（令和3年度）</p> <table border="1" data-bbox="373 535 895 633"> <thead> <tr> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>通算実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4%</td> <td>3%</td> <td>77%</td> </tr> </tbody> </table> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div data-bbox="395 692 863 1061" style="text-align: center;">  <p>整備完成予想図</p> </div> <div data-bbox="892 692 1444 1061" style="text-align: center;">  <p>本丸・蔵屋敷間木橋（完成）</p> </div> </div>	目標	実績	通算実績	4%	3%	77%
目標	実績	通算実績					
4%	3%	77%					
評価検証	<p>整備工事に着手して11年目になり、郭馬出地区に引き続き、本丸地区の整備が着々と進んでいる状況である。本丸・蔵屋敷間木橋が完成したことにより、箕輪城跡の特徴である巨大な堀切を木橋の上から体感できるようになった。今後も本丸の整備をさらに進めることによって、来訪者の史跡の理解を深めるとともに、市民の関心を高めていきたい。</p>						
今後の方針	本丸地区の整備工事を推進する。						

事業名	北谷遺跡保存整備事業（取組 5-2）							
事業の目的	国指定史跡北谷遺跡を永く保存し、市民共通の文化遺産としての活用を図るため、史跡公園として整備する。							
実施状況	<p>平成23年度に策定された保存管理計画をもとに、28年度から史跡地の公有地化に着手し、令和3年度も実施した。</p> <p>なお、令和2年には史跡の追加指定があり、面積が約3.6haから約3.8haに増加した。</p> <p>その他、除草等の史跡管理を行った。</p> <p>◆事業進捗率（令和3年度）</p> <table border="1" data-bbox="386 770 959 871"> <thead> <tr> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>通算実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4%</td> <td>4%</td> <td>91%</td> </tr> </tbody> </table>	目標	実績	通算実績	4%	4%	91%	 <p data-bbox="1142 790 1315 817">北谷遺跡航空写真</p>
目標	実績	通算実績						
4%	4%	91%						
評価検証	引き続き史跡の公有地化を進めた。北谷遺跡について、地元の関心が高まっている。							
今後の方針	史跡地の公有地化を進める。							

事業名	上野国多胡郡正倉跡保存整備事業（取組 5-2）						
事業の目的	国指定史跡上野国多胡郡正倉跡を永く保存し、市民共通の文化遺産としての活用を図るため、史跡公園として整備する。						
実施状況	<p>史跡地周辺の開発が進む中で、史跡を恒久的に保存し積極的な公開活用を図るため、令和3年度から史跡地の公有地化に着手した。</p> <p>◆事業進捗率（令和3年度）</p> <table border="1" data-bbox="386 533 957 631"> <thead> <tr> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>通算実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4%</td> <td>5%</td> <td>5%</td> </tr> </tbody> </table>  <p>上野国多胡郡正倉跡航空写真</p>	目標	実績	通算実績	4%	5%	5%
目標	実績	通算実績					
4%	5%	5%					
評価検証	史跡の公有地化を進め、着実に保存管理できる箇所ができたが、未公有地が多く残る。さらなる公有地化によって、上野国多胡郡正倉跡の保存整備について、地元に関心を高めていきたい。						
今後の方針	史跡地の公有地化を進める。						

事業名	山名古墳群保存整備事業（取組 5-2）	
事業の目的	市指定史跡山名古墳群を永く保存し、市民共通の文化遺産としての活用を図るため、史跡公園として整備する。	
実施状況	<p>除草等の維持管理を行い、来訪者が見学しやすいよう、駐車場を含め環境を整えている。</p> <p>駐車場は、山上碑見学のための大型バス駐車場としても使用している。</p>	
評価検証	維持管理を継続しており、整備については、今後の検討課題となっている。	
今後の方針	上野三碑や他の史跡との一体的活用について検討を進めていく。	

山名古墳群航空写真

事業名	「世界の記憶 上野三碑」関連事業（取組5-2・5-3・5-4・5-10）
事業の目的	ユネスコ「世界の記憶」に登録された上野三碑の周知活動や周辺環境整備、保存管理等を実施する。
実施状況	<p>ユネスコ「世界の記憶」に登録された上野三碑の保存活用を進めるため、三碑一帯の整備、多胡碑記念館の機能強化、ボランティア団体との連携、動画配信や各種パンフレットを活用した情報発信、民間団体との協力による地域振興、児童・生徒への教育などに取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上野三碑普及推進会議の運営 <p>令和元年度に作成した「上野三碑かるた」を市内全小・中学校及び関係機関に配布した。</p> <p>上野三碑ユネスコ登録4周年事業として、講演会、上野三碑特別公開、上野三碑かるた体験会、上野三碑かるた原画展を開催した。</p> <p>初めて開催した上野三碑かるた体験会は、コロナ禍において多人数で集まることができない状況にありながら、感染対策を講じた上で体験会を開催したことにより、参加者から上野三碑に対する興味関心が高まった様子が認められた。また、原画展の開催により、上野三碑をより身近に感じられる機会を提供し、普及を図った。</p> ・上野三碑めぐりバスの運行 ・多胡碑記念館入館料の無料化 ・ボランティア団体等への補助 <p>上野三碑ボランティア会 山上碑・金井沢碑を愛する会 上野三碑をつなぐ会</p> ・副教材の配布 <p>市立小学校、中学校の新1年生児童・生徒</p> ・レプリカの展示・貸出し <p>高崎駅コンコース（通年展示）、南八幡公民館</p> ・ロゴマークの普及・使用許可 ・周知事業 パンフレット作成及び配布、高崎駅ペDESTリアンデッキ看板設置等 ・環境整備 ボランティア団体と共同による作業
評価検証	<p>令和元年度～2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により上野三碑見学者数が大幅に減少したが、3年度は前年度比増となり、回復傾向となった。</p> <p>上野三碑めぐりバスの運行等においては、感染症対策を徹底し、バス停を増設するなど利便性を高めた。</p>
今後の方針	引き続き感染症対策をとりつつ、地元ボランティア団体等と協力し、上野三碑の更なる普及・推進に努めたい。



上野三碑かるた体験会



上野三碑副教材（小・中学生対象）

事業名	文化財保存活用事業（取組 5-2・5-6）																																	
事業の目的	市内に点在する指定文化財を保護するとともに、史跡・重要文化財等の一般公開を実施する。また、文化財愛護精神の高揚を図るため、文化財作文コンクールなど参加型の関連事業を開催する。																																	
実施状況	<p>保護普及活動事業として、文化財作文コンクールの実施、上豊岡の茶屋本陣等の歴史的建造物の公開をした。ユネスコ「世界の記憶」に登録された上野三碑の公開は、新型コロナウイルス感染症対策を講じて再開した。</p> <p>◆文化財作文コンクール応募者数</p> <table border="1" data-bbox="392 638 949 835"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度</td> <td>1,500人</td> <td>1,293人</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>1,500人</td> <td>568人</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>600人</td> <td>879人</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆上豊岡の茶屋本陣見学者数</p> <table border="1" data-bbox="392 931 949 1128"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度</td> <td>1,000人</td> <td>1,162人</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>1,000人</td> <td>440人</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>500人</td> <td>809人</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆上野三碑一般公開見学者数</p> <table border="1" data-bbox="392 1225 949 1422"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度（1日公開）</td> <td>589人</td> </tr> <tr> <td>令和2年度（中止）</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>令和3年度（2日公開）</td> <td>603人</td> </tr> </tbody> </table>		年度	目標	実績	令和元年度	1,500人	1,293人	令和2年度	1,500人	568人	令和3年度	600人	879人	年度	目標	実績	令和元年度	1,000人	1,162人	令和2年度	1,000人	440人	令和3年度	500人	809人	年度	実績	令和元年度（1日公開）	589人	令和2年度（中止）	—	令和3年度（2日公開）	603人
年度	目標	実績																																
令和元年度	1,500人	1,293人																																
令和2年度	1,500人	568人																																
令和3年度	600人	879人																																
年度	目標	実績																																
令和元年度	1,000人	1,162人																																
令和2年度	1,000人	440人																																
令和3年度	500人	809人																																
年度	実績																																	
令和元年度（1日公開）	589人																																	
令和2年度（中止）	—																																	
令和3年度（2日公開）	603人																																	
評価検証	文化財作文コンクール応募者数、上豊岡の茶屋本陣見学者数、上野三碑一般公開見学者数ともに前年度比増となった。上野三碑一般公開は感染症対策を徹底して再開した。また、上野三碑解説動画の公開を継続し、外出しなくても文化財に親しむことができる機会を提供した。																																	
今後の方針	指定文化財の適切な保存管理に努め、文化財が身近に感じられるようなイベントの開催など、感染症対策を心掛けながら、文化財への理解を促していきたい。																																	




作文コンクール授賞式






一般公開当日のめぐりバス

事業名	埋蔵文化財調査事業（取組 5-3・5-4）												
事業の目的	開発事業によって壊される遺跡の出土品などを展示し、その成果を広く市民に公開する。前橋高崎連携事業の一つとして文化財展を実施し、両市の市民が郷土史への理解を深めるような展示を行う。												
実施状況	<p>前橋市との連携展示会をシティギャラリーで実施した。</p> <p>◆連携展入場者数</p> <table border="1" data-bbox="391 544 954 739"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度</td> <td>1,200 人</td> <td>885 人</td> </tr> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>1,200 人</td> <td>417 人</td> </tr> <tr> <td>令和 3 年度</td> <td>500 人</td> <td>634 人</td> </tr> </tbody> </table> <div style="display: flex; flex-wrap: wrap;">     </div> <p style="text-align: center;">高崎会場展示品</p>	年度	目標	実績	令和元年度	1,200 人	885 人	令和 2 年度	1,200 人	417 人	令和 3 年度	500 人	634 人
年度	目標	実績											
令和元年度	1,200 人	885 人											
令和 2 年度	1,200 人	417 人											
令和 3 年度	500 人	634 人											
評価検証	「発掘調査最前線—東国文化の中心地を掘ってみた 2—」と題し、本市と前橋市にて最新の発掘調査の中から特筆すべき遺跡を取り上げ、大切に伝えらえた文化財を未来へつなぐため、両市の基礎となった歴史の豊かさを示す品々を展示した。												
今後の方針	発掘調査によって得られた資料をより生かすため、公開の場を増やし、文化財保護の保存と活用を図る。												

事業名	多胡碑周辺重要遺跡範囲確認調査事業（取組 5-3）							
事業の目的	多胡郡衙等の遺跡の所在、範囲及び性格を明らかにすることにより、多胡碑の史跡としての価値を高めるとともに、多胡碑の重要性等について周知を図る。							
実施状況	<p>11年目（全16年）の調査となった令和3年度は、奈良時代の郡衙施設の有無を確認するため、多胡碑南東地区において412.2㎡を調査し、奈良時代の区画溝などを発見した。</p> <p>出土品としては古墳時代前期の銅鏡が良好な状態で出土した。</p> <p>調査成果については多胡碑記念館で出土品の展示会を開催し、広く市民に公開した。</p> <p>◆事業進捗率（令和3年度）</p> <table border="1" data-bbox="395 913 938 1014"> <thead> <tr> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>通算実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2%</td> <td>2%</td> <td>69%</td> </tr> </tbody> </table>	目標	実績	通算実績	2%	2%	69%	 <p>出土した銅鏡（直径約10cm）</p>
目標	実績	通算実績						
2%	2%	69%						
評価検証	<p>多胡碑南東地区では昨年度に引き続き北辺区画溝を調査した。</p> <p>調査成果の公開については、新型コロナウイルス感染症対策のため、人の密度が高まる現地説明会は行わず、代わりに多胡碑記念館で出土した銅鏡の展示会を開催したところ、マスコミにも大きく取り上げられ、来場者は約1,000人に及んだ。</p>							
今後の方針	<p>多胡碑南東地区で奈良時代のものと思われる区画溝を発掘したことから、溝に囲まれる遺跡の範囲の確定、及び内部施設の発掘による遺跡の性格を明らかにするために確認調査を継続する。</p> <p>また、市民に遺跡の重要性を伝える公開活動を継続する。</p>							

事業名	上野国分尼寺跡範囲確認調査事業（取組5-3）						
事業の目的	上野国分尼寺跡の寺域範囲や施設配置等を調査することにより、国分尼寺の史跡としての価値を高めるとともに、国分尼寺の重要性等について周知を図る。						
実施状況	<p>6年目（全14年）の調査となった令和3年度は、過去6年間の発掘調査成果報告書作成のため、整理作業を行った。</p> <p>作業の過程で寺院範囲内の建物配置の状況や、主要建物である金堂の状況が明らかとなったことから、当時の状況を分かりやすく解説するために2点の想像画を作成した。</p> <p>想像画はかみつけの里博物館にて公開・展示を行った。</p> <p>◆事業進捗率（令和3年度）</p> <table border="1" data-bbox="395 981 901 1086"> <thead> <tr> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>通算実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2%</td> <td>2%</td> <td>47%</td> </tr> </tbody> </table>  <p style="text-align: center;">伽藍地俯瞰 想像画</p>  <p style="text-align: center;">金堂 想像画</p>	目標	実績	通算実績	2%	2%	47%
目標	実績	通算実績					
2%	2%	47%					
評価検証	<p>発掘調査によって判明した建物の構造・規模・屋根瓦・基壇化粧石等の状況を詳細に検討し、奈良時代の景観を復元した想像画を作成した。この想像画は、市民に当時の状況を分かりやすくイメージしてもらう事を目的として作成したが、絵画の完成度が高く、珍しい試みでもあったためマスコミにも大きく取り上げられ、目的を達成することができた。</p> <p>また、かみつけの里博物館ロビーで出土品とともに展示したところ好評を博し、来場者は約4,816人に上った。</p>						
今後の方針	<p>遺跡の内容が明らかとなり、その範囲がほぼ確定した。今後はこれまでの調査成果をまとめた報告書を刊行し、遺跡の価値を確定していく。また、必要に応じ発掘調査を継続し、調査成果の公開を積極的に実施していく。</p>						



事業名	文化財調査事業（取組 5-5・5-6）								
事業の目的	文化財の把握・保護に取り組むため、指定文化財の所在調査や未指定文化財等の詳細調査、指定文化財の修理や案内板等の設置を行う。								
実施状況	<p>指定文化財所在確認調査や建造物調査を実施した。 国指定重要文化財榛名神社や県指定文化財等の保存修理を実施した。 指定文化財の説明板を設置し文化財の普及に努めた。 柴崎浅間山古墳の寄贈を受け、その後市史跡に指定した。</p> <table border="1" data-bbox="387 584 962 781"> <thead> <tr> <th>事業の内容</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>文化財所在確認調査数</td> <td>87 件</td> </tr> <tr> <td>文化財修理件数</td> <td>4 件</td> </tr> <tr> <td>指定文化財説明板設置件数</td> <td>5 件</td> </tr> </tbody> </table> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div data-bbox="421 842 839 1155" style="text-align: center;">  <p>榛名神社双龍門修理状況</p> </div> <div data-bbox="924 842 1342 1155" style="text-align: center;">  <p>市指定重要文化財説明板設置</p> </div> </div>	事業の内容	件数	文化財所在確認調査数	87 件	文化財修理件数	4 件	指定文化財説明板設置件数	5 件
事業の内容	件数								
文化財所在確認調査数	87 件								
文化財修理件数	4 件								
指定文化財説明板設置件数	5 件								
評価検証	<p>市内指定文化財の所在確認調査の継続実施や建造物調査を行い、文化財の保存管理状況などを確認し、課題等を把握することができた。</p> <p>また、指定文化財の説明板を設置し、文化財の活用に向けた成果を上げることができた。</p> <p>柴崎浅間山古墳の寄贈を受け、現地説明会を開催することができた。また、説明看板を設置し、防草シートを敷くなどの整備を実施した。</p>								
今後の方針	今後の文化財指定・保護の資料とするため、各種文化財の調査事業を充実させる。								

事業名	歴史民俗資料館運営事業（取組 5-7・5-8）																																								
事業の目的	昔の人の生活文化を知り市民生活の推移を理解していくため、歴史民俗資料の収集や企画展の開催、体験的な学習活動を実施する。																																								
実施状況	<p>○歴史民俗資料館</p> <table border="1" data-bbox="389 394 1455 591"> <thead> <tr> <th colspan="2">事業の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>企画展「路面電車が見た高崎」</td> <td>令和 3. 11. 20～4. 1. 23 入館者 1,314 人</td> </tr> <tr> <td>企画展「継承された機織り技術」</td> <td>令和 4. 2. 5～3. 6 入館者 248 人</td> </tr> <tr> <td colspan="2">団体見学受入、小学校社会科見学受入</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆歴史民俗資料館入館者数</p> <table border="1" data-bbox="389 636 932 842"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度</td> <td>6,500 人</td> <td>6,419 人</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>6,500 人</td> <td>4,340 人</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>5,100 人</td> <td>4,653 人</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">企画展「路面電車が見た高崎」 </p> <p>○榛名歴史民俗資料館</p> <table border="1" data-bbox="389 987 1455 1187"> <thead> <tr> <th colspan="2">事業の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>企画展「むかしの暮らし展」</td> <td>令和 3. 4. 1～4. 3. 31 入館者 2,901 人</td> </tr> <tr> <td>榛名神社史跡めぐり</td> <td>令和 3. 11. 10 参加者 26 人</td> </tr> <tr> <td>榛名の歴史を知る講演会</td> <td>中止</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆榛名歴史民俗資料館入館者数</p> <table border="1" data-bbox="389 1232 940 1431"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度</td> <td>7,500 人</td> <td>10,471 人</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>8,000 人</td> <td>2,973 人</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>3,100 人</td> <td>2,901 人</td> </tr> </tbody> </table>	事業の内容		企画展「路面電車が見た高崎」	令和 3. 11. 20～4. 1. 23 入館者 1,314 人	企画展「継承された機織り技術」	令和 4. 2. 5～3. 6 入館者 248 人	団体見学受入、小学校社会科見学受入		年度	目標	実績	令和元年度	6,500 人	6,419 人	令和2年度	6,500 人	4,340 人	令和3年度	5,100 人	4,653 人	事業の内容		企画展「むかしの暮らし展」	令和 3. 4. 1～4. 3. 31 入館者 2,901 人	榛名神社史跡めぐり	令和 3. 11. 10 参加者 26 人	榛名の歴史を知る講演会	中止	年度	目標	実績	令和元年度	7,500 人	10,471 人	令和2年度	8,000 人	2,973 人	令和3年度	3,100 人	2,901 人
事業の内容																																									
企画展「路面電車が見た高崎」	令和 3. 11. 20～4. 1. 23 入館者 1,314 人																																								
企画展「継承された機織り技術」	令和 4. 2. 5～3. 6 入館者 248 人																																								
団体見学受入、小学校社会科見学受入																																									
年度	目標	実績																																							
令和元年度	6,500 人	6,419 人																																							
令和2年度	6,500 人	4,340 人																																							
令和3年度	5,100 人	4,653 人																																							
事業の内容																																									
企画展「むかしの暮らし展」	令和 3. 4. 1～4. 3. 31 入館者 2,901 人																																								
榛名神社史跡めぐり	令和 3. 11. 10 参加者 26 人																																								
榛名の歴史を知る講演会	中止																																								
年度	目標	実績																																							
令和元年度	7,500 人	10,471 人																																							
令和2年度	8,000 人	2,973 人																																							
令和3年度	3,100 人	2,901 人																																							
評価検証	<p>歴史民俗資料館は、令和2年の登録有形文化財登録を機に「建物全体が展示物」というコンセプトを継続しながら、常設展示、2回の企画展開催、団体見学や小学校の社会科見学の受け入れを積極的に行った。コロナ対策により体験学習は控えざるを得なかったが、職員による実演や解説も一方的なものにならないよう配慮し、クイズ形式や気づいたことを発表できる機会を設ける工夫を凝らしたことで、一般来館、団体・社会科見学の人数ともに微増ではあるが、前年よりアップした。</p> <p>榛名歴史民俗資料館は、新型コロナウイルス感染症の影響による榛名神社や榛名湖への観光客の減少に伴い、入館者の減少が続いているが、地域の観光行事やイベントに積極的に協力し、地域に根ざした運営を行って集客に努めている。</p>																																								
今後の方針	<p>地元根ざした資料館として特色ある企画展等を開催し、入館者の増加と満足度向上に努めていく。</p>																																								

事業名	観音塚考古資料館運営事業（取組 5-9・5-10）																											
事業の目的	誰もが身近に考古学に親しめるよう、観音塚古墳出土品を中心とした企画展、体験学習の場を提供する。																											
実施状況	<table border="1" data-bbox="389 371 1437 770"> <thead> <tr> <th colspan="3">事業の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3">常設展 「観音塚古墳の世界」</td> </tr> <tr> <td>ミニ企画展 「八幡台地の遺跡Ⅱ 若田坂上遺跡」</td> <td>令和 3. 4. 3～9. 26</td> <td>入館者 2, 068 人</td> </tr> <tr> <td>企画展 「群馬の中期古墳とその時代」</td> <td>令和 3. 10. 2～12. 5</td> <td>入館者 2, 006 人</td> </tr> <tr> <td colspan="3">講演会、歴史ウォーク、学芸員による展示解説の実施、団体見学受入、小学校社会科見学受入、八幡小学校と西部小学校で出前授業を実施</td> </tr> </tbody> </table> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div data-bbox="429 792 873 1122">  <p data-bbox="453 1149 810 1173">企画展「群馬の中期古墳とその時代」</p> </div> <div data-bbox="956 792 1399 1122">  <p data-bbox="979 1149 1361 1173">歴史ウォーク「八幡台地の古墳を歩く」</p> </div> </div> <p data-bbox="371 1229 756 1261">◆観音塚考古資料館入館者数</p> <table border="1" data-bbox="389 1270 987 1467"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度</td> <td>8,000 人</td> <td>9,183 人</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>8,000 人</td> <td>5,932 人</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>6,100 人</td> <td>5,368 人</td> </tr> </tbody> </table>	事業の内容			常設展 「観音塚古墳の世界」			ミニ企画展 「八幡台地の遺跡Ⅱ 若田坂上遺跡」	令和 3. 4. 3～9. 26	入館者 2, 068 人	企画展 「群馬の中期古墳とその時代」	令和 3. 10. 2～12. 5	入館者 2, 006 人	講演会、歴史ウォーク、学芸員による展示解説の実施、団体見学受入、小学校社会科見学受入、八幡小学校と西部小学校で出前授業を実施			年度	目標	実績	令和元年度	8,000 人	9,183 人	令和2年度	8,000 人	5,932 人	令和3年度	6,100 人	5,368 人
事業の内容																												
常設展 「観音塚古墳の世界」																												
ミニ企画展 「八幡台地の遺跡Ⅱ 若田坂上遺跡」	令和 3. 4. 3～9. 26	入館者 2, 068 人																										
企画展 「群馬の中期古墳とその時代」	令和 3. 10. 2～12. 5	入館者 2, 006 人																										
講演会、歴史ウォーク、学芸員による展示解説の実施、団体見学受入、小学校社会科見学受入、八幡小学校と西部小学校で出前授業を実施																												
年度	目標	実績																										
令和元年度	8,000 人	9,183 人																										
令和2年度	8,000 人	5,932 人																										
令和3年度	6,100 人	5,368 人																										
評価検証	<p data-bbox="371 1509 1445 1733">入館者数は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、前年対比において減となった。ただし、群馬県内の代表的な中期古墳を紹介した企画展の開催期間中の入館者数は、前年より増加している。また、定員を以前の半数以下にするなど感染症対策を行い、前年は実施できなかった講演会と歴史ウォーク、学芸員による展示解説を行った。</p> <p data-bbox="371 1749 1445 1827">新しい取組として、近隣の八幡小学校と西部小学校の高学年を対象に文化財の大切さについて学ぶ出前授業を行い、身近な古墳などへの興味や関心が高まった。</p>																											
今後の方針	<p data-bbox="371 1868 1445 2040">学校教育・社会教育関連施設、文化振興・観光関連部局と連携し、教育施設として有効に活用されるよう努める。歴史愛好者のニーズに応えられるよう企画展等の充実を図るとともに、メディアへの情報提供など積極的な広報活動を心掛け、館の認知度を高める。</p>																											

事業名	かみつけの里博物館運営事業（取組 5-3・5-9・5-10）																										
事業の目的	国指定史跡保渡田古墳群とその周辺遺跡にかかわる考古資料の収集・保存・調査研究を行うとともに、常設展示・各種展覧会や体験学習等を通して、学習の場を提供する。																										
実施状況	<table border="1" data-bbox="384 398 1428 813"> <thead> <tr> <th colspan="2">事業の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>体験型企画展「わくわく博物館体験 ‘21」</td> <td>令和 3. 6. 2～11. 3 入館者 14, 353 人</td> </tr> <tr> <td>特別展「鈴ーよみがえる古墳時代の響きー」</td> <td>令和 3. 12. 11～4. 2. 28 入館者 4, 985 人</td> </tr> <tr> <td>歴史講座 「かみつけ塾」</td> <td>中止</td> </tr> <tr> <td>石の勾玉作り</td> <td>2 回実施（令和 2. 8. 1、8. 8）</td> </tr> <tr> <td>総合的学習の時間参加者</td> <td>上郊小学校 6 年生 延べ 245 人</td> </tr> <tr> <td>第 1 1 回かみつけの里古墳祭り（実行委員会主催）</td> <td>中止</td> </tr> </tbody> </table> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div data-bbox="459 875 863 1173" style="text-align: center;">  <p>小学生の古墳見学</p> </div> <div data-bbox="970 875 1369 1173" style="text-align: center;">  <p>特別展での「音と映像の展示」</p> </div> </div> <p style="margin-top: 10px;">◆かみつけの里博物館入館者数</p> <table border="1" data-bbox="408 1294 986 1487"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度</td> <td>40,000 人</td> <td>54,159 人</td> </tr> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>45,000 人</td> <td>36,592 人</td> </tr> <tr> <td>令和 3 年度</td> <td>47,000 人</td> <td>31,422 人</td> </tr> </tbody> </table>	事業の内容		体験型企画展「わくわく博物館体験 ‘21」	令和 3. 6. 2～11. 3 入館者 14, 353 人	特別展「鈴ーよみがえる古墳時代の響きー」	令和 3. 12. 11～4. 2. 28 入館者 4, 985 人	歴史講座 「かみつけ塾」	中止	石の勾玉作り	2 回実施（令和 2. 8. 1、8. 8）	総合的学習の時間参加者	上郊小学校 6 年生 延べ 245 人	第 1 1 回かみつけの里古墳祭り（実行委員会主催）	中止	年度	目標	実績	令和元年度	40,000 人	54,159 人	令和 2 年度	45,000 人	36,592 人	令和 3 年度	47,000 人	31,422 人
事業の内容																											
体験型企画展「わくわく博物館体験 ‘21」	令和 3. 6. 2～11. 3 入館者 14, 353 人																										
特別展「鈴ーよみがえる古墳時代の響きー」	令和 3. 12. 11～4. 2. 28 入館者 4, 985 人																										
歴史講座 「かみつけ塾」	中止																										
石の勾玉作り	2 回実施（令和 2. 8. 1、8. 8）																										
総合的学習の時間参加者	上郊小学校 6 年生 延べ 245 人																										
第 1 1 回かみつけの里古墳祭り（実行委員会主催）	中止																										
年度	目標	実績																									
令和元年度	40,000 人	54,159 人																									
令和 2 年度	45,000 人	36,592 人																									
令和 3 年度	47,000 人	31,422 人																									
評価検証	<p>年間入館者数は前年比約 9% 減となった。6 月から 9 月にかけては、まん延防止等重点措置や緊急事態宣言の対象地域となった影響で、入館者数は前年度より落ち込んだが、11 月以降は前年度並みに回復した。</p> <p>感染症対策のため、企画展は前年度と同様に「触らなくても楽しめる」内容で実施した。体験事業の勾玉づくりについては、参加人数を減らして 2 回実施した。特別展では、古墳時代の鈴をテーマとし、実際の展示品の鈴を鳴らした映像を撮影した「音と映像の展示」を初めて実施した。展示品の鈴を鳴らした映像により、入館者の印象に残る展示となった。古墳祭りと歴史講座「かみつけ塾」は中止とした。</p>																										
今後の方針	<p>館藏品について活用を図りながら適切な管理を行う。また、魅力ある展覧会を行うとともに、新たに作成した教職員用ガイドブックを使って楽しく学べる事業実施にも努める。歴史遺産を確実に継承していくため、市民との協働により事業を実施していく。</p>																										

事業名	多胡碑記念館運営事業（取組 5-3・5-9・5-10）																																																													
事業の目的	多胡碑を中心とした資料等を収集・展示し市民の理解を深めるとともに、山上碑・金井沢碑を含めユネスコ「世界の記憶」に登録された上野三碑の情報発信を図る。																																																													
実施状況	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="3" style="text-align: center; background-color: #cccccc;">事業の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3">常設展示</td> </tr> <tr> <td colspan="3">国指定特別史跡多胡碑、山上碑、金井沢碑（上野三碑）のレプリカなど、石碑・石塔に関する資料や、古代多胡郡の出土遺物。中国の古代から中世の石刻の拓本等の展示</td> </tr> <tr> <td colspan="3">企画展示</td> </tr> <tr> <td colspan="3">収蔵拓本コレクション 3 「幕末明治の文人たち」</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: right;">令和 3. 4. 6～6. 27</td> <td style="text-align: right;">入館者 1,790 人</td> </tr> <tr> <td>開館 25 周年記念展</td> <td style="text-align: right;">令和 3. 4. 27～6. 27</td> <td style="text-align: right;">入館者 1,554 人</td> </tr> <tr> <td>こどものためのコウズケサンピ</td> <td style="text-align: right;">令和 3. 7. 22～9. 20</td> <td style="text-align: right;">入館者 888 人</td> </tr> <tr> <td>上野三碑かるた原画展</td> <td style="text-align: right;">令和 3. 10. 28～11. 28</td> <td style="text-align: right;">入館者 1,305 人</td> </tr> <tr> <td>第 43 回企画展「子三」</td> <td style="text-align: right;">令和 3. 10. 28～12. 12</td> <td style="text-align: right;">入館者 1,635 人</td> </tr> <tr> <td>吉井こども書道展 25 年の歩み</td> <td style="text-align: right;">令和 3. 12. 11～4. 1. 10</td> <td style="text-align: right;">入館者 405 人</td> </tr> <tr> <td>第 25 回多胡碑記念館吉井こども書道展</td> <td style="text-align: right;">令和 4. 1. 22～2. 13</td> <td style="text-align: right;">入館者 1,013 人</td> </tr> <tr> <td>上野三碑一般公開</td> <td style="text-align: right;">令和 4. 3. 6</td> <td style="text-align: right;">入館者 136 人</td> </tr> <tr> <td colspan="3">体験事業等</td> </tr> <tr> <td colspan="3">コウズケ 3 ピーズをさがせ(かるた版、屋外版)、上野三碑かるたクイズ、多胡碑記念館 25 のひみつ</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆多胡碑記念館入館者数</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">年度</th> <th style="width: 25%;">目標</th> <th style="width: 25%;">実績</th> <th style="width: 25%;"></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度</td> <td>20,000 人</td> <td>12,945 人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>18,000 人</td> <td>7,703 人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>令和 3 年度</td> <td>8,200 人</td> <td>8,689 人</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	事業の内容			常設展示			国指定特別史跡多胡碑、山上碑、金井沢碑（上野三碑）のレプリカなど、石碑・石塔に関する資料や、古代多胡郡の出土遺物。中国の古代から中世の石刻の拓本等の展示			企画展示			収蔵拓本コレクション 3 「幕末明治の文人たち」				令和 3. 4. 6～6. 27	入館者 1,790 人	開館 25 周年記念展	令和 3. 4. 27～6. 27	入館者 1,554 人	こどものためのコウズケサンピ	令和 3. 7. 22～9. 20	入館者 888 人	上野三碑かるた原画展	令和 3. 10. 28～11. 28	入館者 1,305 人	第 43 回企画展「子三」	令和 3. 10. 28～12. 12	入館者 1,635 人	吉井こども書道展 25 年の歩み	令和 3. 12. 11～4. 1. 10	入館者 405 人	第 25 回多胡碑記念館吉井こども書道展	令和 4. 1. 22～2. 13	入館者 1,013 人	上野三碑一般公開	令和 4. 3. 6	入館者 136 人	体験事業等			コウズケ 3 ピーズをさがせ(かるた版、屋外版)、上野三碑かるたクイズ、多胡碑記念館 25 のひみつ			年度	目標	実績		令和元年度	20,000 人	12,945 人		令和 2 年度	18,000 人	7,703 人		令和 3 年度	8,200 人	8,689 人	
事業の内容																																																														
常設展示																																																														
国指定特別史跡多胡碑、山上碑、金井沢碑（上野三碑）のレプリカなど、石碑・石塔に関する資料や、古代多胡郡の出土遺物。中国の古代から中世の石刻の拓本等の展示																																																														
企画展示																																																														
収蔵拓本コレクション 3 「幕末明治の文人たち」																																																														
	令和 3. 4. 6～6. 27	入館者 1,790 人																																																												
開館 25 周年記念展	令和 3. 4. 27～6. 27	入館者 1,554 人																																																												
こどものためのコウズケサンピ	令和 3. 7. 22～9. 20	入館者 888 人																																																												
上野三碑かるた原画展	令和 3. 10. 28～11. 28	入館者 1,305 人																																																												
第 43 回企画展「子三」	令和 3. 10. 28～12. 12	入館者 1,635 人																																																												
吉井こども書道展 25 年の歩み	令和 3. 12. 11～4. 1. 10	入館者 405 人																																																												
第 25 回多胡碑記念館吉井こども書道展	令和 4. 1. 22～2. 13	入館者 1,013 人																																																												
上野三碑一般公開	令和 4. 3. 6	入館者 136 人																																																												
体験事業等																																																														
コウズケ 3 ピーズをさがせ(かるた版、屋外版)、上野三碑かるたクイズ、多胡碑記念館 25 のひみつ																																																														
年度	目標	実績																																																												
令和元年度	20,000 人	12,945 人																																																												
令和 2 年度	18,000 人	7,703 人																																																												
令和 3 年度	8,200 人	8,689 人																																																												
評価検証	<p>多胡碑を含む上野三碑のガイダンス施設として、上野三碑のレプリカや関連資料、遺物などを常設展示し、上野三碑の情報を発信している。</p> <p>入館者数については平成 29 年度の上野三碑のユネスコ「世界の記憶」登録で大きく増加したが、以後減少傾向にあった。新型コロナウイルス感染症の影響がさらに追い打ちをかけたが、令和 3 年度になって入館者数は上昇傾向に転じた。これは、「開館 25 周年記念展」や「吉井こども書道展 25 年の歩み」といった開館 25 周年の節目を記念する企画展を開催したことや、非接触型体験「おうち拓本」などのホームページ上での情報発信を継続して実施していることが要因と考えられる。</p>																																																													
今後の方針	上野三碑見学の拠点として、上野三碑に関する展示の更なる充実に努め、引き続き学校教育、社会教育、生涯学習の場としての機能を充実させる。関係するボランティア団体と連携し来館者へ対応するとともに、積極的な情報発信を心がける。																																																													

事業名	吉井郷土資料館運営事業（取組 5-3・5-7・5-9）												
事業の目的	地域の歴史・民俗資料の収集・保管及び調査・研究を行い、それに伴う講演会、体験学習等を行うことで市民が歴史的遺産に親しみ、郷土愛を育む場や機会を提供する。												
実施状況	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center; background-color: #cccccc;">事業の内容</p> <p>常設展示 1階展示室：吉井藩主家資料、吉井の火打金、牛伏砂岩切り出し資料 2階展示室：地史、自然、考古、原始古代、中世、近世、近現代、 民俗関係資料、多胡碑レプリカ</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>企画展「吉井信照の生涯」 令和 3. 10. 30～12. 12 入館者 577 人</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>夏休み体験学習 まが玉づくり、馬庭念流体験、布ぞうりづくりを新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止とした。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>講演会「史料から見る吉井信照とその時代」 令和 3. 11. 20 参加者 19 人</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>企画展の様子</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>講演会の様子</p> </div> </div> <p>◆吉井郷土資料館入館者数</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">年度</th> <th style="width: 25%;">目標</th> <th style="width: 25%;">実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度</td> <td>3,800 人</td> <td>3,058 人</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>3,300 人</td> <td>1,894 人</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>2,200 人</td> <td>1,872 人</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	令和元年度	3,800 人	3,058 人	令和2年度	3,300 人	1,894 人	令和3年度	2,200 人	1,872 人
年度	目標	実績											
令和元年度	3,800 人	3,058 人											
令和2年度	3,300 人	1,894 人											
令和3年度	2,200 人	1,872 人											
評価検証	年間入館者数は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり昨年度とほぼ同数であった。また、「まが玉づくり」等の夏休み体験学習は、コロナ拡大防止のため中止とした。企画展については、「吉井信照の生涯」と題して、旧吉井藩主家の日露戦争従軍、東南アジアでのゴム園経営者や狩猟家としての生活を写真・文献資料等で紹介した。また企画展関連事業として「日露戦争従軍日記」の刊行や、定員数を制限するなど感染症対策を行い講演会「史料から見る吉井信照とその時代」を実施した。												
今後の方針	地域に根ざした資料館として、収蔵品を整理、活用を図りながら特色ある事業を実施し、更に地域住民に愛される活動を続けていく。												

事業名	埋蔵文化財センター整備事業（取組 5－10）
事業の目的	発掘調査件数の急増により増加が見込まれる遺跡出土資料を体系的に保存・管理し、生涯学習や学校教育と連携した活用を推進するための拠点施設として、埋蔵文化財センターの整備を行う。
実施状況	今後の調査件数の見通しをつけ、現状での収蔵量や保管状態を確認した結果、増加していく出土品に対応するため、新たな保管施設が必要なことが確認された。
評価検証	これまで収蔵すべき資料の量を把握し、各地の先進事例について情報収集してきたが、今後はさらに活用事例を検討していく。
今後の方針	収蔵施設に転用可能な既存市有施設の情報を収集していく。

V 点検・評価結果に対する学識経験者の意見

1 はじめに

高崎市の教育行政は「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正による新たな教育委員会制度のもとで、総合教育会議で策定した「高崎市教育大綱」により、総合的な教育施策の目的や方針を掲げている。「高崎市教育大綱」に掲げる施策の視点のもと、年度ごとに「高崎市教育行政方針」による具体的な事業内容や目標を設定し、「点検・評価報告書」により成果を確認し、評価を行っている。

「高崎市教育大綱」による新たな事業体系は、今回の点検・評価対象としている令和3年度事業で4年目を迎えた。この間、点検・評価報告を通して、成果を可視化するための指標の設定や再検討が行われており、事業目的の再構築や実施方法の改善につなげることで、新教育委員会制度が求める教育行政における責任体制の明確化、迅速な危機管理体制の構築、地域の民意を代表する首長との連携強化を着実なものとしていく必要がある。

一方で、令和3年度事業については、引き続き新型コロナウイルス感染拡大により大きな困難を抱えてきたが、多くの事業において、「令和3年度教育行政方針」で定めた内容について、創意工夫と努力により、ウィズ／アフターコロナ時代への展望も部分的に見えている。

多くの制約の中、各事業において教育機能の維持のため、きめ細やかな取組も行われており、その点にも着目しながら、以下において各施策の視点ごとに点検・評価についての検証を行うものとする。

2 5つの施策の成果と課題について

★施策の視点1 生涯学び続け、心豊かにたくましく生きぬく子どもの育成

幼・保・小連携推進事業では、新しい形式の研修会を検討し、昨年度実施できなかった教育講演会をオンデマンド形式により実施することで、多くの参加者から「内容に満足した」という評価を得ることができた。研修内容を共有することで、幼保小の連続性における、共通理解が一層深められ、互いに理解し合うことに結びついた結果と考えられる。今後はブロック別の活動についても状況に応じた工夫等を行い、更なる事業の充実につなげてほしい。

子どもの学ぶ意欲向上事業では、各学校で指導体制の工夫や「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を進めた結果、「授業がわかる」と答えた児童生徒が8割以上の学校の割合は100%に達した。1人1台タブレット端末についても児童生徒の活用や教員の研修が進んでおり評価できる。今後も確かな学力の向上に向け、授業改善とタブレット端末の効果的な活用を一層推進してほしい。

児童生徒の学力補充事業では、「チャレンジ・ザ・日本ジュニア数学オリンピック」に参加した生徒の95%が講座に満足していることから、講座の質の高さが評価され、数学の学習に対する意欲向上につながっていると認められる。英語関係事業についても、コロナ禍に対応した実施方法の工夫等を行い、多くの児童生徒が目的をもって参加できるようにするとともに、参加した児童生徒が満足する魅力ある事業となることを期待する。

英語教育指導事業では、ALTの不足を配置の工夫や臨時ALTの活用によって補い、市内全ての児童生徒が、担任や英語担当教諭とALTとのチームティーチングによる授業を受けることができる体制を維持することができた。さらに、全小学校が教育課程特例校となり、9年間を見通した指導を行っていることや、中学校では4技能をバランスよく育成するための授業改善を進めていることが、4技能型外部試験での好成績等の成果につながっていると認められる。また、ALTの研修をオンラインで実施し、指導力向上につながっている点も評価できる。今後も児童生徒の実践的なコミュニケー

ション能力の育成に向け、ALTの指導力向上や有効活用に努められたい。

学力アップ推進事業では、「学力アップ大作戦」、「中学生休日学習相談ステーション」とともに、参加者数等が増加しており、それぞれの事業の定着とともに、児童生徒が安心して参加できるように感染症対策を徹底するなど、コロナ禍に対応した工夫が効果を上げていると考えられる。今後も地域運営委員会への適切な助言や「中学生休日学習相談ステーション」の周知等に努め、学力向上に向けた家庭や地域との連携を一層推進してほしい。

いじめ防止対策事業では、教育委員会が実施しているいじめ防止担当教諭研修や子どもたちの会議等が市全体のいじめ防止に向けた取組を先導しており、各校の組織的な取組につながっていると考えられる。特に「高崎ルール タブレットバージョン」の策定は、時機を得た取組として評価できる。今後も子ども一人ひとりの規範意識の醸成を図るとともに、児童生徒が安心して生活できる学校づくりを目指し、各校のいじめ防止に向けた取組を牽引していくことを期待する。

やるベンチャーウィーク推進事業では、令和2年度に引き続き事業所での活動は見送ったが、校内で代替活動を行っており、各中学校が本事業の目的に資する取組を工夫して実施していることが分かる。今後も感染状況等に応じた柔軟な対応を行い、生徒一人ひとりが、社会との接続や「働くこと」を意識した取組となるよう努められたい。

「気になる子」対策事業では、補助金や人的配置によって、幼稚園において特別な支援を必要とする「気になる子」への支援を充実させている。多様化する幼児一人ひとりの実態に応じた指導や支援をきめ細かく行っていくために、引き続き幼児の実態やニーズに応じた事業の継続を期待したい。

読書活動推進事業では、各学校で図書館指導員を活用し、学校図書館の「読書センター」「学習・情報センター」としての機能充実や効果的な活用が図られており、本事業の成果がうかがえる。学校図書館を活用した質の高い学習活動が展開されるよう、学校図書館指導員の研修の充実や担任等との連携に努められたい。

学校・家庭・地域連携事業では、地域住民や保護者の知識・技術を活用した授業や研修を実施している学校は目標値を下回ったが、内容は多岐にわたっており、児童生徒の学びを充実させ、学校・家庭・地域の連携につながる取組となっていることが認められる。特に、1人1台タブレット端末の導入時に小学校低学年児童に効果的な指導を行った取組は、新たな連携内容として評価できる。今後も地域人材を活用する際のねらいを明確にするとともに、本事業の一層の活用により学校・地域・保護者の一層の連携・協働を推進されたい。

学校教育力向上対策事業では、市内教職員を対象とした人権教育講演会を1年ぶりに実施することができた。参加者の縮小に伴い、DVDの貸し出しを行い、校内研修で視聴できるようにした点は、コロナ禍における事業の工夫として大いに評価できる。学校現場における人権教育は重要性を一層増しており、今後も研修内容の充実やオンラインによる開催方法も検討し、教職員の質的向上に資する事業となることを期待する。

通級指導教室推進事業では、指導教員のスキルアップのための研修を実施するとともに、感染対策をとりながら工夫して指導に取り組んだ結果、「改善により退級した児童生徒数」が増加したと考えられる。通級による指導の成果が通常の学級における授業や生活にも表れるよう、通級担当者と学級担任のより一層の連携が望まれる。

教育調査研究・研修事業では、コロナ禍においても、受講者が充実した研修内容であると回答する割合が高い。これは研修内容を工夫して行ったほか、受講者がオンラインによる研修に慣れ、オンライン上でも意見交換が活発にできるようになった結果だと考えられる。従来のセンター研修（対面・集合

型)とオンラインによる研修を併用し、参加者にとってより効果的な研修になるよう、事業の充実を図られたい。

教育支援センター事業では、児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することを目指す必要があることから、適応指導教室の名称を教育支援センターに変更した。また、名称の変更に伴い、小学校低学年の児童や特別な支援を必要とする児童生徒の入室依頼について、基本的に受け入れていく方針としたことにより、多様化する不登校児童生徒の状況や願いに応じて、柔軟な支援による居場所づくりの充実を図られたい。不登校に悩む児童生徒の社会的自立を目指した教育支援センターとしての取組の更なる充実を期待したい。

学力向上推進事業では、確かな学力の定着を図るため、少人数学級による授業やシラバスに沿った授業展開により、主体性を育む取組が見られた。また、座学中心の授業に留まることなく、協働作業を通して、より深い学びに結びつけることができていた。教員も研究と修養に努め、指導力向上のセミナーへの参加も積極的であった。今後も生徒の興味・関心を高めるとともに、自らの考えを相手に伝える力をつけさせるべく、「主体的・対話的で深い学び」への一層の取組を期待する。

キャリア教育推進事業では、対面だけでなくオンライン会議システムを用いた企業訪問や卒業生から大学について話を聞く会の開催を通じ、キャリア教育の新たな実施方法を確立しており、今後もより充実したキャリア教育の推進を図られたい。

国際教育推進事業では、コロナの影響が続く中でも、全校生徒が英語検定を受検する環境を維持し、一定の成果を収めている。また、海外での対面交流は実施できなかったが、オンライン会議システムを用いた交流会や、対面でのエンパワーメントプログラムを実施するなど、事業内容に工夫が認められる。

★施策の視点2 子どもたちの心身の健康と体力の向上

児童生徒等健康管理対策事業では、感染症対策を講じながら、定期健康診断を11月末までに全ての学校で終了し、学校保健統計も作成できた。また、「歯と口の健康週間行事」は縮小開催となったが、「図画・ポスター・標語コンクール特別賞展示」を市庁舎1階ロビーで開催したことは、受賞した児童生徒だけでなく、広く市民の目に触れることも健康の保持増進を図る上で、工夫した取組として評価できる。

学校保健充実事業では、昨年度より多くの学校が感染症防止対策を講じながら工夫して講演会等を実施することができ、事業の継続に努めたことは評価できる。引き続き、希望する学校ができる限り受講できるように、事業の更なる発展を期待したい。

部活動充実事業では、各中学校に部活動指導員の配置や運動部への外部指導者を派遣することで、教職員の心理的負担や勤務時間の軽減が着実に推進され、生徒の技能の向上やけがの防止が図られていると考えられる。地域人材を各校の部活動運営の中へ位置づけることで、持続可能な部活動となることや、保護者や生徒の実情に合った活動となるため、更に部活動運営に携わる地域人材の発掘に期待したい。

学校体育充実事業では、体育の授業改善におけるタブレットの活用により自己の課題を視覚的に明確化することによって、課題解決に必要な基本的技能や知識を身に付けるとともに、主体的に取り組む姿勢を育んだことは、新たな試みとして評価できる。各校では、新体力テストを利用した学校課題の明確化、全校体制による計画的・組織的な取組を推進するよう努められたい。

交通教室事業では、交通安全教室、親子自転車教室の受講者数の増加によって、安全に対する意識が高まり、自転車事故件数の減少に繋がっていると考えられ一定の評価はできるが、引き続き和田橋交通公

園での交通安全教室を中心に、小学生における自転車交通事故ゼロを目指して、地域の実情に応じた交通安全教室が実施できるよう、関係団体と協力した事業を推進していくことを期待する。

給食充実事業では、地場農作物の使用率が目標を下回る状態が続いており、生産者や関係機関と生育状況や生産量等の情報を収集し、使用促進に向けた工夫を続けることで、児童生徒が地元の農産物・農業への関心を高める機会の創出に努められたい。栄養教諭・栄養士の食に関する指導は、献立を通して伝統的な食文化や行事食、食品の産地や特徴を指導することで、児童生徒が地元の農産物や生産者に関心を持ち、残さず食べようとする気持ちが高められるよう、食に関する指導の充実に努められたい。

給食運営事業では、推定値による給食残渣量において幼稚園、小学校及び中学校の残渣は昨年度に引き続き目標値より少なく、特別支援学校では昨年は目標値より多かったが、今回は目標値を達成できた。献立の内容や使用する食材などの工夫により目標値の達成を目指し、食育を意識した取組を続けることを期待する。

小学生自然体験活動事業では、榛名林間学校榛名湖荘において、市内小学5年生が榛名湖周辺の自然に触れる自然体験活動を日帰りで行った。「榛名湖ウオーク」のプログラムにより榛名湖周辺の豊かな自然に触れ合うことができたことは、心身ともに健康な子どもの育成につながる取組であるとともに地域の自然を活用した教育として評価できる。今後も各学校の実情に応じた安全で質の高い自然体験活動を提供し、榛名地域の豊かな環境を理解するとともに、児童同士の協働、自主性を育む機会となるよう、一層の工夫・改善を行うことを期待する。

「健康教育」啓発事業では、各校がエイズパネルを作成し、校内や各支所での展示を行った。縮小開催ではあるが啓発活動を行ったことは評価できる。今後も事業内容の検討や精選などを通じて、学校・家庭・地域が連携し効果的に事業目的の達成ができるよう、事業の充実に努められたい。

★施策の視点3 安全で多機能な教育環境づくりの推進

学校施設改修事業及び学校施設整備事業については、安全で機能的な教育環境を創出するため、緊急性等を勘案して工事を行うとともに、優先順位を付けて予算を計画的に配分し、効果的に事業に取り組むことを期待する。

学校体育施設開放事業では、多くの市民が身近にスポーツを親しむことができる場として利用し、人々の交流を促進することができた。市民がスポーツやレクリエーション活動を通じて、幸福で豊かな生活を営むことができるよう、引き続き事業の周知に努めるとともに、安全管理の徹底に努められたい。

★施策の視点4 地域力を育む社会教育の充実

地区推進体制整備事業では、新型コロナウイルス感染症の影響はあるものの生涯学習推進員が関わった地域活動は、事業数の増加に伴い参加人数も前年度より増加している。引き続き事業の充実に図り、推進員の活動が更に地域住民に理解されるよう努められたい。

公民館運営事業では、感染症対策を講じながら公民館活動を継続し、公民館利用者、公民館主催事業への参加者は前年度と比較し増加した。インターネットの活用や館外事業の実施など、コロナ禍の中でも学習機会を提供するための工夫が見られる。今後は地域の諸団体との共催事業の再開を図るなど地域の特色を生かした事業により一層取り組み、地域の拠点としての役割を果たすよう努められたい。

生涯学習推進事業では、生涯学習フェスティバルの入場者を会場の収容定員の50%以下に制限す

るなど感染症対策を講じて開催し、市民の学習支援に努められた。参加者数が減少した生涯学習推進研究事業については、コロナ拡大防止のための事業中止や活動自粛等によるものと認められるが、出前講座は、講座の数を増やしたことなどもあり参加者数に回復傾向がみられている。引き続き事業を推進し、市民の活動支援や情報の発信に努められたい。地域人材登録活用事業は、利用自粛を経験した市民が再び利用を始めたことから、受講者数が増加した。引き続き市民の多様なニーズに応え積極的な学習の支援に努められたい。高崎学検定事業は、コロナ禍でも安心して受検できる環境を整え、各メディアによる周知活動を行ったことにより、受検者数、新規受検者割合も前年同程度を確保することができた。今後も市民主体の生涯学習を推進するために、市民の学習の契機となるような取組を期待する。

人権文化創造事業では、コロナの影響により一部の事業において参加者数が目標値に届かなかったが、前年度に比べると増えている。参加者の満足度ではコロナ禍の対応としてさまざまな工夫をしたため目標値を上回ることができている。今後も社会の変化に対応できるよう継続して努められたい。

家庭教育支援事業では、コロナの影響から人数制限して事業を開催したため、参加者数は減少しているものの、参加者の満足度を見ると依然として高い評価を得ている。今後もアンケートを通して市民のニーズを反映した事業となるよう継続して努められたい。

視聴覚教育事業では、事業の目的を見直し、それに合わせて成果指標が見直されたことは評価できる。コロナ対策を講じて開催できた事業が増えたこと、また参加者の満足度も目標値を超えることができている。教材・教具の環境整備なども含めて更に充実した事業内容になるよう努められたい。

公民館整備事業及び社会教育施設改修事業では、既存施設の老朽化対策として修繕（補修）工事を行った。施設の安全性・利便性を確保するため、計画的な補修と適切な維持管理に努められたい。

市民活動センター管理運営事業では、コロナ禍でも安心して利用できる施設を心がけたことや、市民の学習活動が高まっていることなどから、利用者数が増加に転じた。引き続きコロナ禍においても市民主体の生涯学習活動の拠点となるために、市民の学習意欲を引き出す事業に積極的に取り組むことを期待する。

図書館管理運営事業では、個人貸出点数及び貸出人数が前年度より増加しており、文化活動が困難な状況下でも市民の幅広い学習ニーズに対応できる兆しが見えてきた。資料の収集やサービスの一層の充実を図り、この傾向を顕著なものとしてほしい。市民の生涯学習を支援し、市民の生活に寄り添い役立つ図書館づくりを目指してもらいたい。

「市民生活に寄り添う図書館づくり」では、レファレンスサービスに力を入れ、国立国会図書館が運用するレファレンス協同データベースへの積極的な登録・公開がなされている。また、群馬県立図書館が運営するデジタルライブラリーを活用し、高崎市の貴重な資料をデジタル画像として広く公開している。今後も更なるレファレンスサービスの拡充が図られることを期待する。

子どもの読書活動の推進及び関係諸機関との連携事業は、学校との情報交換を密にすることで、より学習に適した資料を収集でき、授業でのよりよい活用につながっている。今後も家庭、地域、学校、図書館等が連携・協力して読書活動の推進に努められたい。

★施策の視点5 歴史や文化の薫り高い文化環境づくりの推進

文化財保存活用地域計画の策定・推進事業については、この計画の意義の周知に努めるとともに、策定に向けての情報収集や資料整理を着実に進めることで、文化財への市民の関心を高める取組になることを期待する。

日高遺跡保存整備事業では、JR上越線南側区域の整備を着実に進めるとともに、供用を開始した上越線北側区域の適切な管理と更なる活用を通して、遺跡への関心を高め、市民が楽しみながら学べる場の提供を図られたい。

箕輪城跡保存整備事業では、本丸の整備工事が着実に進められ、新たに本丸・蔵屋敷間の木橋が完成したことにより、市民の関心が高まっている。引き続き計画的に整備事業を進め、多くの人々が集う史跡公園になるよう努められたい。

北谷遺跡保存整備事業では、公有地化が着実に推進されており、今後も史跡指定地の公有地化を進め、適切に保存管理することで、市民の関心に応じた事業となるよう努められたい。

上野国多胡郡正倉跡保存整備事業では、令和3年度より公有地化を開始した。今後も公有地化を進めるとともに史跡指定地の保存管理を行い、市民の期待に応える事業となるよう努められたい。

山名古墳群保存整備事業では、適切な維持管理が実施されている。今後も近隣の文化財との連携を図り、多様なニーズに応えるべく環境整備や新たな事業展開の検討に努められたい。

「世界の記憶 上野三碑」関連事業では、コロナの影響も大きかったと考えられるが、感染症対策を講じながら、上野三碑かるたの体験会や原画展など、子どもたちを含む市民が文化財に親しむ事業を新たに実施することが出来た。今後も積極的な事業展開に努め、市民の要望に応えられたい。

文化財保存活用事業及び埋蔵文化財調査事業では、前橋市との連携事業文化財展を開催し、来場者数を増加傾向に戻すことが出来た。今後も市民が安心して文化財に親しめる機会の創出に努められたい。

多胡碑周辺重要遺跡範囲確認調査事業及び上野国分尼寺跡範囲確認調査事業では、古墳時代前期の銅鏡の出土など新たな調査成果が上がっており、その調査成果を市民に対し積極的に公開していると認められる。今後も継続して発掘調査を行い、新たな発見と成果の公開に努められたい。

文化財調査事業では調査件数が増加しており、着実に調査に取り組んでいると認められる。今後も指定文化財の適切な管理とあわせ、文化財・文化資源全般の更なる調査の充実を図られたい。

歴史民俗資料館運営事業、観音塚考古資料館運営事業、かみつけの里博物館運営事業、多胡碑記念館運営事業及び吉井郷土資料館運営事業では、非接触型の体験学習の実施やホームページでの情報発信など、感染症対策を講じながら市民の関心に応えるための取組を実施している。今後もこうした施策をより積極的に展開し、市民に強く支持される館の運営に努められたい。

埋蔵文化財センター整備事業では、発掘された出土品や関連資料を適切に保存管理するため必要な措置の検討に努められたい。

3 おわりに

ここまで、各施策の視点ごとに点検・評価についての検証を行ってきたが、最後に、コロナ禍への対応という観点から論点を提示するとともに、特筆すべき成果をあげた事業について整理しておきたい。

冒頭で述べたように、令和3年度の事業も、令和2年度に引き続き新型コロナウイルス感染症拡大の甚大な影響を受ける中で実施された。ただし、「令和2年度高崎市教育行政方針」が策定された時点では感染症拡大がほとんど想定されていなかったのに対し、「令和3年度高崎市教育行政方針」は、コロナ禍の長期化とその事業実施に対する影響を前提として、各事業の目標と計画が策定されているので、各事業の評価にあたっては、コロナ禍への対応のあり方という視点も重要であると思われる。もちろん、コロナ禍を前提として事業を実施するとはいえ、依然として予測不可能なことも多いが、いずれにせよ、コロナ禍にありながらも、様々な工夫を凝らして事業を実施し成果をあげられた各方面の関

係者の尽力に心より敬意を表したい。

オンライン会議システムは、3密を回避するための方法として、教育に限らず広く社会において採用され普及したが、高崎市の教育行政においても様々な事業において導入され、一定の成果をあげているようである。いじめ防止対策事業と教育調査研究・研修事業における種々の研修、高崎経済大学附属高等学校の取組における企業訪問や国際交流、公民館運営事業における各種講座などがオンラインで実施され、ひとつの方法として定着しつつある。もともとオンライン会議システムは、対面でのコミュニケーションの代替方法として普及したが、感染拡大状況が改善して人々の対面による行動が制限されなくなれば必要がなくなる、というものではないであろう。オンライン会議システムは、人の移動や会議室の確保などに費やす時間やコストを縮減する可能性があるだけでなく、人々のネットワークを拡大させる可能性もある。また、ウェブ上のアンケート・フォームを利用することで、アンケートの集計も容易になり、事業の改善に役立てることができる。もちろん、対面でないといけないことも多いので、対面とオンラインそれぞれのメリット／デメリットについて検証評価が行われることを期待したい。

ICT（情報通信技術）を、対面によるコミュニケーションの代替技術として留めておくのではなく、教育行政の改善に利用していくことが、今まさに求められているところであろう。こうした観点からすると、令和2年度に作成・発行した「高崎GIGAスクール構想における授業実践」の活用によって、1人1台タブレット端末の効果的な利用事例の紹介と教員に対する研修が行われ、継続的に授業改善が進められていることは、評価に値する。一方、教育におけるICTの利用自体は、すでにコロナ禍以前から開始されているが、コロナ禍により急に加速されたために、個人間、組織間において技術・知識に格差が生じていることも事実であり、単なる物的な基盤の整備に留まらずに、ノウハウの共有と改善のための工夫が一層求められていると思われ、「タブレット端末を活用した授業実践例（仮）」の作成・発行などについて期待するとともに、ひいては学校教育全般にわたるDX化が進展していく土台作りにもつながることが期待される。

もちろん、事業によってはICTによって代替できないものも多々あるが、そうした事業にあっても、感染症対策を徹底するだけでなく様々な工夫を施すことによって、令和2年度には中止あるいは大幅に規模を縮小せざるをえなかった事業において、令和3年度には実施状況の改善が見られたことも改めて評価しておきたい。例えば、やるベンチャーウィーク推進事業において、従来の事業所での体験活動に代わる新たな試みがなされているほか、小学生自然体験活動事業において、充実した日帰りプログラムをつくり市内全小学校が実施することができたのは、関係者の柔軟な発想に基づく工夫が生かされているようである。こうして工夫を凝らして実施された事業についても、単なる代替策として位置づけてコロナ禍が終わればコロナ以前に戻るのではなく、コロナ以前の事業の見直し・改善につながることを期待される。

ここまで、コロナ禍への対応という観点からいくつかの事業について述べてきたが、コロナ禍はあくまでひとつの制約条件であって、各事業の成果がそうした観点からのみ測れるものでないことはいうまでもない。コロナ禍への対応とは別に、大きな成果をあげている事業について、最後に3点ほどあげておきたい。第1に、英語教育指導事業である。JETプログラムによるALTが不足する状況をALTの配置の工夫や臨時ALTの活用によって補い、担任や英語担当教諭とALTとのティームティーチングによる授業を受けることのできる体制を維持しただけでなく、全小学校が教育課程特例校となり、中学校までの9年間を見通した体系的な英語教育が実施され、中学校では4技能をバランスよく育成する授業改善により、4技能型外部試験における好成績につながっていることには注目すべき

である。第2に、適応指導教室の名称を教育支援センターに改めるとともに、機能の拡充を図ったことも、子どもたちの抱える課題の多様化に対応する取組として評価しておきたい。第3に、これまで継続して取り組まれてきた市内の遺跡保存整備事業の進展があげられよう。多胡碑周辺重要遺跡範囲確認調査事業と上野国分尼寺跡範囲確認調査事業は、すでに令和2年度の時点で、遺跡の範囲の広がりも新たに明らかにされマスコミにも取り上げられたが、令和3年度は、前者において古墳時代の銅鏡が良好な状態で出土し、後者においてこれまでの発掘調査・研究を基礎として復元された景観の想像画が作成されるなど、調査研究の着実な展開が伺えるだけでなく、広報活動の点でも工夫が施され、より広く社会の関心を集めていることは高く評価できる。箕輪城跡保存整備事業において本丸・蔵屋敷間木橋が完成したことも同様である。

以上のように、高崎市の教育行政は、コロナ禍にありながらも、関係者の尽力により着実に進展していることが確認できる。とはいえ、コロナ禍は、教育行政だけでなく、社会のいたるところで、様々な課題が未解決のままにあることを認識するきっかけとなっている。そうした気づきを大切に、危機をチャンスに組み替えていけるよう、今後ともたゆまぬ努力を積み重ねていかれることを期待したい。

公立大学法人高崎経済大学
経済学部教授 唐澤 達之

VI 点検・評価結果を踏まえた教育委員会の対応・方向性

本報告書に記載した点検・評価は、令和3年度の教育行政方針に掲げられた取組について実施したもので、5つの施策の視点に基づく事業の実施状況等についての評価検証を行いました。

令和3年度事業については、引き続き新型コロナウイルス感染症の拡大が大きな影響を及ぼす中で、コロナ禍の長期化と事業実施に対する影響を前提として策定した目標と計画に基づいて、可能な限り事業の本質に近づくことを目指し、各事業に取り組みました。なかでも、コロナ禍における3密を回避する方法としてのオンライン会議システムは、システムの特徴やメリットを活用し、一定の効果をあげており、ICTによる代替ができない事業においても感染症対策を徹底することで、中止あるいは大幅に縮小せざるをえなかった事業の改善を図りました。また、英語教育指導事業は、ALTの有効活用により着実に推進され、教育支援センター事業は、子どもたちの抱える課題の多様化に対応する機能の拡充を図るなど、取り組んできた結果が成果につながったものと考えられます。

一方で、コロナ禍の影響があるとはいえ、目標が達成されていない事業も認められており、これらの事業については、点検・評価による検証等を踏まえ、より一層の改善に努めます。

今後については、学識経験者からの提言を生かし、コロナ禍の経験を各事業の考察すべき課題点に気づく機会として大切にしていきたいと考えています。また、創意工夫を凝らした事業を単なる代替え案として位置付けるだけでなく、コロナ以前の事業の見直し・改善につなげることで、本市が基本方針の一つに掲げる「教育と人づくり」の実現と更なる教育行政の充実に向けた取組を進めていきます。

生涯学習都市宣言

わたくしたち高崎市民は
生きとし生けるものが共に生き
自然と人間と経済の調和する
文化の香り高い
豊かなまちづくりをめざします

ひとりひとりが
自らの人間性を高めるため
生きがいのある人生を求めため
あすをひらく意欲に燃えて
生涯学び続けるよう努めます

ここに
いつでも どこでも だれでも
たのしく学べるまち
「生涯学習都市高崎」を宣言します

平成7年12月2日制定

人権尊重都市宣言

人はだれでも、一人ひとりかけがえのない存在として尊重され、豊かに、健康で幸せな生活を営む権利をもっています。この基本的人権は、いかなる理由があっても侵害されるものではありません。

わが国では、日本国憲法に明示されている基本的人権の確立のため、人権擁護のさまざまな努力が続けられてきました。いまや、地球規模の交流時代の中で、人権の尊重がいつそう強い社会的要請にまで高まっています。

私たちは、すべての市民の人権を等しく保障するために、平和及び人権尊重について、共に学び行動し、明るい民主的社会的実現を図る必要があります。

ここに、私たち市民は、憲法のかかげる平和及び人権の確立とその擁護のための活動を推進し、人と人とのふれあいを大切に、いたわりの心がゆきわたる市民生活の充実した高崎市を築くために、「人権尊重都市」を宣言します。

平成7年11月30日制定

核兵器廃絶平和都市宣言

私たち高崎市民は、ふるさと高崎を愛し、しあわせがみんなに広がるまちづくりを、未来への道しるべとしています。

しかし、いま私たちの生活に大きな暗い影をおとしているものがあります。

それは、人類を滅亡におとし入れる核兵器です。

この核兵器の廃絶こそ、私たち高崎市民の願いです。

私たちは、平和を愛するすべての国の人々とともに、真の永久平和を実現することを決意し、ここに「核兵器廃絶平和都市」を宣言します。

昭和61年3月5日制定

たかさきこども憲章

わたしたち高崎の子どもは、自分たちの育った愛するこのまちで、緑いっぱいの環境や伝統的な文化を守り、夢や希望にあふれる未来をつくるための道しるべとして、市制110周年を記念し、この「たかさきこども憲章」を定めます。

わたしたちは、一人ひとりの気持ちを考え、笑顔いっぱいの平和なまちにしていきます。

わたしたちは、自然を大切にし、緑あふれるきれいなまちをつくっていきます。

わたしたちは、地域の伝統を守り、高崎の新しい文化をつくっていきます。

わたしたちは、思いやりや感謝の気持ちを忘れず、人と人とのつながりを大切にしていきます。

わたしたちは、夢をかなえるために自分を信じ、努力と挑戦をしていきます。

平成22年2月13日制定

こども都市宣言

明日の高崎、そして世界を担うのは、子どもたちです。

市民が育て、守ってきた伝統や精神、自然環境を受け継ぎ、子どもたち一人ひとりが、たくましく心豊かに成長することは、わたしたち高崎市民の願いです。

この願いを実現するために、わたしたちは安心して子どもを産み育てることができるまちづくりに取り組み、子どもの人権を尊重し、子どもたちが様々な可能性に挑戦できる社会をつくっていきます。

高崎市民がともに力を合わせ、大きな心で子どもを見守り、家庭、学校をはじめ地域社会全体で子どもを育てていくことを決意し、ここに「こどもをはぐくむ都市高崎」を宣言します。

平成23年4月1日制定

令和4年度(2022年度)
教育委員会の点検・評価報告書

令和3年度(2021年度)事業対象

発行 高崎市教育委員会
370-8501 高崎市高松町35番地1
電話 027-321-1291
FAX 027-328-2261
E-mail ky-soumu@city.takasaki.gunma.jp
編集 高崎市教育委員会事務局